

夏の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
10510	明治26年	夏の部	夕立のわするものらし松の月	夕立	天文
33	明治27年	夏の部	宿とりて衣更へたる夕かな	更衣	人事
34	明治27年	夏の部	職人の衣更へたる一坐かな	更衣	人事
35	明治27年	夏の部	菩提寺の僧と語るや衣更	更衣	人事
36	明治27年	夏の部	ほろ / \ と雉啼く野辺の麦熟せり	麥	植物
37	明治27年	夏の部	日入らんとして麦刈る野辺に人むれたり	麦刈	人事
38	明治27年	夏の部	刈麦の庄屋が軒の匂ひかな	麦刈	人事
39	明治27年	夏の部	卯の花の鎧の袖にこぼれける	卯の花	植物
40	明治27年	夏の部	卯の花の爰は都のはづれなり	卯の花	植物
41	明治27年	夏の部	夕月の卯の花垣根馬士帰る	卯の花	植物
42	明治27年	夏の部	一輪で咲く大寺の牡丹かな	牡丹	植物
43	明治27年	夏の部	杜若咲くや汀の石黒し	杜若	植物
44	明治27年	夏の部	廣縁に姫居並べり杜若	杜若	植物
45	明治27年	夏の部	杜若池一面に咲きにけり	杜若	植物
46	明治27年	夏の部	杜若誰殿の住みあらしけむ	杜若	植物
47	明治27年	夏の部	杜若庄屋が池の夜明かな	杜若	植物
48	明治27年	夏の部	夕月の白芥子の花ほろ / \ と	罌粟の花	植物
49	明治27年	夏の部	面白や芥子散る里の夕月夜	罌粟の花	植物
50	明治27年	夏の部	白芥子に赤前垂の女かな	罌粟の花	植物
51	明治27年	夏の部	わが宿の白芥子の花咲きにけり	罌粟の花	植物
52	明治27年	夏の部	名も知らぬ鳥の啼きけり夏木立	夏木立	植物
53	明治27年	夏の部	風をり / \ 灯火青き若葉かな	若葉	植物
54	明治27年	夏の部	夕雨の夏山の裾牛帰る	夏山	地理
55	明治27年	夏の部	ものゝふの歌よまんとす子規	時鳥	動物
56	明治27年	夏の部	大佛の肩のあたりを子規	時鳥	動物
57	明治27年	夏の部	子規石の華表に苔むしぬ	時鳥	動物
58	明治27年	夏の部	子規つら / \ 高き梢かな	時鳥	動物
59	明治27年	夏の部	神体の何とも知れず子規	時鳥	動物
60	明治27年	夏の部	宮柱太しき立てほとゝきす	時鳥	動物
61	明治27年	夏の部	大川の舟箭の如し子規	時鳥	動物
62	明治27年	夏の部	子規某侯の登城かな	時鳥	動物
63	明治27年	夏の部	行列の跡や先なり子規	時鳥	動物
64	明治27年	夏の部	子規御意むづかしの大名や	時鳥	動物
65	明治27年	夏の部	子規名古屋は古き関所なり	時鳥	動物
66	明治27年	夏の部	子規箱根峠の夜明かな	時鳥	動物
67	明治27年	夏の部	あけぼのゝ船頭ひとり子規	時鳥	動物
68	明治27年	夏の部	直垂の人立ちにけり子規	時鳥	動物
69	明治27年	夏の部	子規五條の橋の夜明かな	時鳥	動物
70	明治27年	夏の部	子規啼くや古墳月黒し	時鳥	動物
71	明治27年	夏の部	一峯江に落ちて青し子規	時鳥	動物
72	明治27年	夏の部	子規なくや断岸三千丈	時鳥	動物
73	明治27年	夏の部	大木の道に仆れつひきかへる	藁	動物
74	明治27年	夏の部	草屋二軒中より出る藁	藁	動物
75	明治27年	夏の部	蚊遣火や親老いて子は幼し	蚊遣	人事
76	明治27年	夏の部	旅僧の軒にゑむかやりかな	蚊遣	人事
77	明治27年	夏の部	一峯高し蚊遣の里の家五六	蚊遣	人事
78	明治27年	夏の部	山々の裾はかやりの烟かな	蚊遣	人事
79	明治27年	夏の部	つく / \ と富士見る人や五月晴	五月晴	天文

夏の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
80	明治27年	夏の部	五月雨や濁浪一瀉三千里	五月雨	天文
81	明治27年	夏の部	五月雨の函根を越えて宿りけり	五月雨	天文
82	明治27年	夏の部	五月雨の店頭の丁稚眠りける	五月雨	天文
83	明治27年	夏の部	五月雨や翁端然として大閤記	五月雨	天文
84	明治27年	夏の部	五月雨の江戸は八百八町なり	五月雨	天文
85	明治27年	夏の部	五月雨の馬ほく / \ と東海道	五月雨	天文
86	明治27年	夏の部	葉がくれのいちご見えたる夕日かな	苺	植物
87	明治27年	夏の部	寺子らが机の上のいちごかな	苺	植物
88	明治27年	夏の部	女の子雛人形のいちごかな	苺	植物
89	明治27年	夏の部	里の子のいちごわけいり小藪道	苺	植物
90	明治27年	夏の部	乳母が手の無下に卑きいちごかな	苺	植物
91	明治27年	夏の部	蝸牛や竹縁三尺経机	蝸牛	動物
92	明治27年	夏の部	かたつむり公達のむつからせ給ふ	蝸牛	動物
93	明治27年	夏の部	蝸牛林中に入て雨晴れぬ	蝸牛	動物
94	明治27年	夏の部	蝸牛行脚の僧未だ帰らず	蝸牛	動物
95	明治27年	夏の部	翡翠の一ツ止まって小雨ふる	翡翠	動物
96	明治27年	夏の部	かはせみの飛去て池暮れんとす	翡翠	動物
97	明治27年	夏の部	百合咲くや旅僧ひとり地藏堂	百合	植物
98	明治27年	夏の部	古塚の白百合の花咲きにけり	百合	植物
99	明治27年	夏の部	百合の花山門をくぐる女かな	百合	植物
100	明治27年	夏の部	里の子の百合の花さす地藏かな	百合	植物
101	明治27年	夏の部	禿山を見上ぐる牛の暑さかな	暑さ	時候
102	明治27年	夏の部	炎天の村は鎮守の祭かな	炎天	天文
103	明治27年	夏の部	炎天の川原に人の声すなり	炎天	天文
104	明治27年	夏の部	炎天や十里の沙路人見えず	炎天	天文
105	明治27年	夏の部	炎天の漁人群がる川瀬かな	炎天	天文
106	明治27年	夏の部	炎天を只銅像の高きかな	炎天	天文
107	明治27年	夏の部	炎天の大杉ところト \ かな	炎天	天文
108	明治27年	夏の部	炎天や廣野の中の石地藏	炎天	天文
109	明治27年	夏の部	炎天の牛引出すや村外れ	炎天	天文
110	明治27年	夏の部	炎天の大路直なる都かな	炎天	天文
111	明治27年	夏の部	炎天に立並びけり大佛	炎天	天文
112	明治27年	夏の部	炎天の川原に眠る舟子かな	炎天	天文
113	明治27年	夏の部	炎天の峠越えたるひとりかな	炎天	天文
114	明治27年	夏の部	炎天の峠を上る驛馬かな	炎天	天文
115	明治27年	夏の部	炎天を船千艘の港かな	炎天	天文
116	明治27年	夏の部	炎天を長屋 / \ の軒かな	炎天	天文
117	明治27年	夏の部	炎天の乞食ひとり眠りけり	炎天	天文
118	明治27年	夏の部	炎天の瘦牛ところト \ かな	炎天	天文
119	明治27年	夏の部	炎天の畑中通る男かな	炎天	天文
120	明治27年	夏の部	炎天を順礼越ゆる峠かな	炎天	天文
121	明治27年	夏の部	涼しさや竹揺れて海見えにけり	涼し	時候
122	明治27年	夏の部	百萬の灯火涼し江戸の町	涼し	時候
123	明治27年	夏の部	涼しさや磯馴松かげところト \	涼し	時候
124	明治27年	夏の部	涼しさや大海原を月一輪	涼し	時候
125	明治27年	夏の部	涼しさや東は海波三萬里	涼し	時候
126	明治27年	夏の部	涼しさや水橋上を越えんとす	涼し	時候
127	明治27年	夏の部	涼しさや浪とう / \ と海士が軒	涼し	時候

夏の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
128	明治27年	夏の部	涼しさや燈火見ゆる向川岸	涼し	時候
129	明治27年	夏の部	涼しさや夕立ながら松の月	涼し	時候
130	明治27年	夏の部	清水とく / \ 晝とざしたる小村かな	清水	地理
131	明治27年	夏の部	武者一騎岩踏みならず清水かな	清水	地理
132	明治27年	夏の部	清水湧く小村の軒の草長し	清水	地理
133	明治27年	夏の部	夕顔や職人かへる薄月夜	夕顔	植物
134	明治27年	夏の部	撫子や晝静かにして鶏うたふ	撫子	植物
135	明治27年	夏の部	岨道の撫子やせて覚束な	撫子	植物
309	明治28年	夏の部	丹壘白壘若葉の中の五層樓	若葉	植物
310	明治28年	夏の部	打開く大手の門の青あらし	青嵐	天文
311	明治28年	夏の部	玉欄干釵光扇影青あらし	青嵐	天文
312	明治28年	夏の部	青嵐吹き入る海の朝日かな	青嵐	天文
313	明治28年	夏の部	大川の渦き青く螢とぶ	螢	動物
314	明治28年	夏の部	僧入定ほたる三ツ四ツ低くとぶ	螢	動物
315	明治28年	夏の部	前栽のほたる三ツ四ツ小雨ふる	螢	動物
317	明治28年	夏の部	時鳥況んや我は夢みらく	時鳥	動物
318	明治28年	夏の部	人見えず只海山のさみだるゝ	五月雨	天文
320	明治28年	夏の部	梅雨晴のそこと定めよ須磨明石	梅雨晴	天文
321	明治28年	夏の部	柳暗く水白く水鶏なく夜かな	水鶏	動物
322	明治28年	夏の部	灯幽かに鶺鴒が妻のひとり居る	鶺鴒	人事
323	明治28年	夏の部	岨道や丈三尺の蛇の衣	蛇衣を脱ぐ	動物
324	明治28年	夏の部	五月雨の大佛仰ぐひとりかな	五月雨	天文
325	明治28年	夏の部	無二無三に角振立てよ蝸牛	蝸牛	動物
326	明治28年	夏の部	夕立の跡に連る白帆かな	夕立	天文
327	明治28年	夏の部	夕立の雲吹きつけぬ天主閣	夕立	天文
329	明治28年	夏の部	夕立の板東太郎六十里	夕立	天文
330	明治28年	夏の部	姫百合の覚束なげや草の中	百合	植物
331	明治28年	夏の部	今年竹瀝車の烟のすさまじや	若竹	植物
332	明治28年	夏の部	雲の峯満洲の野に崩れんとす	雲の峰	天文
333	明治28年	夏の部	雲の峯奥州五十四郡なり	雲の峰	天文
334	明治28年	夏の部	夏ころも奥の山越え出羽の海	夏衣	人事
335	明治28年	夏の部	某も貴殿も今日の暑さ哉	暑さ	時候
336	明治28年	夏の部	ゆき / \ て五十四郡の清水のまん	清水	地理
337	明治28年	夏の部	蟬なくや右は奥州左出羽	蟬	動物
338	明治28年	夏の部	野も畑もさみだれにけり牛の声	五月雨	天文
339	明治28年	夏の部	夕立やすむむら / \ と比叡の雲	夕立	天文
340	明治28年	夏の部	英雄孺子さても其後あつさかな	暑さ	時候
488	明治29年	夏の部	一山の堂塔古き若葉かな	若葉	植物
489	明治29年	夏の部	夜ほの / \ 湖の上の若葉かな	若葉	植物
490	明治29年	夏の部	さん候あれこそ田植唄にて候え	田植	人事
491	明治29年	夏の部	もの申す聞召したか子規	時鳥	動物
492	明治29年	夏の部	あな笑止山僧未だ衣を更へず	更衣	人事
493	明治29年	夏の部	衣更へて和尚来ませり此夕	更衣	人事
494	明治29年	夏の部	吾妹子が衣更へたるはづかしさ	更衣	人事
495	明治29年	夏の部	子規太郎冠者居るかやい	時鳥	動物
496	明治29年	夏の部	居は膝を容るゝに足れば青嵐	青嵐	天文
497	明治29年	夏の部	里見えて時に閑古鳥がなく	閑古鳥	動物
498	明治29年	夏の部	暁や湖上をはしる青嵐	青嵐	天文

夏の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
499	明治29年	夏の部	一ツ / \ いちご取出す袂かな	苺	植物
500	明治29年	夏の部	口紅の痕すさまじき暑かな	暑さ	時候
502	明治29年	夏の部	そもさんと骸骨抱く涼しさよ	涼し	時候
503	明治29年	夏の部	灯ともすは妹があたりか五月闇	五月闇	天文
505	明治29年	夏の部	五月雨の合羽今簑わらじ	五月雨	天文
506	明治29年	夏の部	城上の雲突抜かんず大幟	幟	人事
507	明治29年	夏の部	姫百合鬼百合姫百合を取る	百合	植物
508	明治29年	夏の部	引く弓の満月の如しほとゝぎす	時鳥	動物
510	明治29年	夏の部	子は瘦せぬ其子の母は此夏を	夏	時候
511	明治29年	夏の部	灯涼しや白装束の巫女ひとり	涼し	時候
512	明治29年	夏の部	涼しさや水樓下る白柏子	涼し	時候
10613	明治29年	夏の部	何とせん只天地のさみだるゝ	五月雨	天文
1091	明治30年	夏の部	更へもあへず衣典するいさゝか惜し	更衣	人事
1092	明治30年	夏の部	綿ぬいで袷と申す送られつ	袷	人事
1093	明治30年	夏の部	師翁より袷と申越されける	袷	人事
1095	明治30年	夏の部	衣更へてかたみに笑めるめをとかな	更衣	人事
1097	明治30年	夏の部	急がずば松魚に後れ申すべく	鯉	動物
1099	明治30年	夏の部	心せよ毛虫の多きところあり	毛蟲	動物
1100	明治30年	夏の部	首盗むべく獄門に忍びつ子規	時鳥	動物
1101	明治30年	夏の部	頭つけば毛虫忽ちわたかまる	毛蟲	動物
1102	明治30年	夏の部	焼跡や幟もなくて日の暮るゝ	幟	人事
1103	明治30年	夏の部	廬を出でず三句にして梅黄ばむ	梅の實	植物
1104	明治30年	夏の部	式部の君祭に見えず恨めしき	祭	人事
1105	明治30年	夏の部	一輪の牡丹切つたる月夜かな	牡丹	植物
1106	明治30年	夏の部	小さき家に白き牡丹ばかりなる	牡丹	植物
1107	明治30年	夏の部	唐代の衣冠正しき牡丹かな	牡丹	植物
1108	明治30年	夏の部	暁に主人牡丹を切りに出づ	牡丹	植物
1109	明治30年	夏の部	悉く牡丹を切て日暮れたり	牡丹	植物
1110	明治30年	夏の部	庵に臥して実となりし櫻眺め得つ	櫻の實	植物
1111	明治30年	夏の部	短夜の戀てふ歌をよみ侍る	短夜	時候
1112	明治30年	夏の部	短夜を傾城町のさわがしき	短夜	時候
1113	明治30年	夏の部	短夜を主上還御とひしめきぬ	短夜	時候
1114	明治30年	夏の部	短夜のともしつらなる港町	短夜	時候
1115	明治30年	夏の部	明易き沖の小嶋のかゝり舟	短夜	時候
1116	明治30年	夏の部	東向の磯家のともし明易き	短夜	時候
1117	明治30年	夏の部	隠者を訪へど逢はずして閑古鳥	閑古鳥	動物
1118	明治30年	夏の部	あはれ六朝の文物閑古鳥	閑古鳥	動物
1119	明治30年	夏の部	池涸れて杜若咲く埒もなし	杜若	植物
1120	明治30年	夏の部	鞭打つや卯の花こぼす執金吾	卯の花	植物
1121	明治30年	夏の部	船に寐て千里江陵青あらし	青嵐	天文
1122	明治30年	夏の部	二三本若楓あらぬ寺もなし	若楓	植物
1123	明治30年	夏の部	古道を枝さしかはす若葉かな	若葉	植物
1124	明治30年	夏の部	大澤の坡に仰ぐ青葉哉	青葉	植物
1125	明治30年	夏の部	遮るを臍でわけゆく若葉かな	若葉	植物
1126	明治30年	夏の部	はらり / \ 若葉の露に首をちぢめつ	若葉	植物
1127	明治30年	夏の部	枝垂れて若葉したるを踏みつ / \	若葉	植物
1128	明治30年	夏の部	千葉か三浦か若葉の中の旗印	若葉	植物
1129	明治30年	夏の部	若葉午にして敵営烟起るを見る	若葉	植物

夏の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
1130	明治30年	夏の部	大砲の烟罩めつくす若葉かな	若葉	植物
1131	明治30年	夏の部	烟すこし若葉の中の砲の音	若葉	植物
1132	明治30年	夏の部	一彪の軍馬出でたり夏木立	夏木立	植物
1133	明治30年	夏の部	夜大雨す筍地を抜くこと三寸	筍	植物
1134	明治30年	夏の部	筍の最も大なるをほる	筍	植物
1135	明治30年	夏の部	筍の分野に魏あり呉蜀あり	筍	植物
1136	明治30年	夏の部	筍の斜につちくれをさくもあり	筍	植物
1137	明治30年	夏の部	夏の月を泳いで前岸に達しける	夏の月	天文
1138	明治30年	夏の部	二三十紅灯吊す納涼かな	納涼	人事
1140	明治30年	夏の部	清水あり馬をはせたる六十里	清水	地理
1141	明治30年	夏の部	昨日見してゝむしの行方を知らず	蝸牛	動物
1142	明治30年	夏の部	此日巳の刻てゝむし出づと記されし	蝸牛	動物
1143	明治30年	夏の部	てゝむしを秦王に献じ説きけらく	蝸牛	動物
1144	明治30年	夏の部	客と荘子とてゝむしを見てみたりける	蝸牛	動物
1145	明治30年	夏の部	てゝむしや蘇秦六国の相となる	蝸牛	動物
1146	明治30年	夏の部	今張りの今干せば柿の花散りぬ	柿の花	植物
1147	明治30年	夏の部	貪りてなるべく僧は帰らず椎の花	椎の花	植物
1148	明治30年	夏の部	夕日赤み雨晴れつ芥子花咲出でつ	罌粟の花	植物
1149	明治30年	夏の部	魯に大に諸侯を會す瓜茄子	雑	雑
1150	明治30年	夏の部	麦の秋蘇秦茫然として帰る	麦の秋	時候
1151	明治30年	夏の部	死なばやと翁うめきつ麦の秋	麦の秋	時候
1152	明治30年	夏の部	高時が犬をはしらす麦の秋	麦の秋	時候
1153	明治30年	夏の部	浪花なる娘下りつ麦の秋	麦の秋	時候
1154	明治30年	夏の部	よき女貧家に嫁して粽結ふ	粽	人事
1155	明治30年	夏の部	女の童の巧みに粽ゆふがあり	粽	人事
1156	明治30年	夏の部	恨むらくは妹が粽のちいさくて	粽	人事
1157	明治30年	夏の部	落人にひそかに粽まゐらせぬ	粽	人事
1158	明治30年	夏の部	妻鮓を韓非説難を作りける	鮓	人事
1159	明治30年	夏の部	すしを得つ詩人一堂に會したる	鮓	人事
1160	明治30年	夏の部	探題して公すしてふを得給ひし	鮓	人事
1161	明治30年	夏の部	七八人城中の鮓に義を結ぶ	鮓	人事
1162	明治30年	夏の部	二三子が頻りに鮓を望みける	鮓	人事
1163	明治30年	夏の部	ひとり住ですしを壓す賢なればなり	鮓	人事
1164	明治30年	夏の部	村熟にすしを壓す因て詩を講ず	鮓	人事
1165	明治30年	夏の部	此鮓を娘孕みたる恨かな	鮓	人事
1166	明治30年	夏の部	此鮓をすしとなすべき由申せ	鮓	人事
1167	明治30年	夏の部	鮓空しく壓したる石の横はる	鮓	人事
1168	明治30年	夏の部	鮎の石重きに過ぎたらんを妹恐る	鮎	動物
1169	明治30年	夏の部	すしを壓す石を得つべく出行きぬ	鮓	人事
1170	明治30年	夏の部	思ひきやかばかり鮓のなれんとは	鮓	人事
1171	明治30年	夏の部	すし桶となすべきを得つさげ帰る	鮓	人事
1172	明治30年	夏の部	鮓を壓す石徒らに重きかな	鮓	人事
1173	明治30年	夏の部	妹瘦せて鮓石重き恨かな	鮓	人事
1174	明治30年	夏の部	すしはあらず何やら欲しう思ひける	鮓	人事
1175	明治30年	夏の部	忠義堂に鮓桶運び終りたる	鮓	人事
1176	明治30年	夏の部	鮓すこし残れるを夜さがし得つ	鮓	人事
1177	明治30年	夏の部	すしを得べく妻を厨下にはしらせつ	鮓	人事
1179	明治30年	夏の部	晋あけ易く兎四五疋楚に奔る	短夜	時候

夏の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
1180	明治30年	夏の部	単穴に詩を題し五月雨を眠る	五月雨	天文
1181	明治30年	夏の部	尽く小き蚤を逸したる	蚤	動物
1182	明治30年	夏の部	暁に閤を出でたる蚤を追ふ	蚤	動物
1183	明治30年	夏の部	周易に蠅糞をしつ溺をしつ	蠅	動物
1184	明治30年	夏の部	取敢へず硯に呑まんとすなる蠅	蠅	動物
1185	明治30年	夏の部	愚なる蚊の何を以て唾壺に出没す	蚊	動物
1186	明治30年	夏の部	西をさして暁の蚊の飛去りぬ	蚊	動物
1187	明治30年	夏の部	屋根の上の蝙蝠を射落さんず	蝙蝠	動物
1188	明治30年	夏の部	蝙蝠に弦を鳴らす徒爾なりき	蝙蝠	動物
1189	明治30年	夏の部	蝙蝠の忽然として見えずなり	蝙蝠	動物
1190	明治30年	夏の部	蝙蝠の今宵東隣より出でぬ	蝙蝠	動物
1191	明治30年	夏の部	疊三ひら敷ける廬を青あらし	青嵐	天文
1192	明治30年	夏の部	草長く水浅きところ螢多かり	螢	動物
1193	明治30年	夏の部	大なる螢たま / \ 西よりす	螢	動物
1194	明治30年	夏の部	行けど / \ 清水ありとしも見えず	清水	地理
1195	明治30年	夏の部	敗軍の清水かきにごし / \	清水	地理
1196	明治30年	夏の部	五月雨の村を犬吠え鶏鳴きぬ	五月雨	天文
1197	明治30年	夏の部	雨五月道蜀に入ること遠し	五月雨	天文
1198	明治30年	夏の部	行くが中に牛は最もさみだるゝ	五月雨	天文
1199	明治30年	夏の部	田舎路の茶屋さみだれて人もなし	五月雨	天文
1200	明治30年	夏の部	箋を展れば夕立の風吹いて来る	夕立	天文
1201	明治30年	夏の部	涼しさの枕水樓と申すあり	涼し	時候
1202	明治30年	夏の部	夕立を危樓と号すべき聳ちぬ	夕立	天文
1203	明治30年	夏の部	夕立や毫を揮へば墨淋漓	夕立	天文
1204	明治30年	夏の部	甚だ可なり試みに昼寐せん	晝寝	人事
1205	明治30年	夏の部	瓜を切れば種が三ツ四ツこぼれける	瓜	植物
1206	明治30年	夏の部	一漢の蚊に苦める古廟かな	蚊	動物
1207	明治30年	夏の部	我を蹴て足長き蚊の飛でゆく	蚊	動物
1208	明治30年	夏の部	薄暗く晝の蚊多し閤魔堂	蚊	動物
1209	明治30年	夏の部	蚊帳の中の蚊を打果す夜明かな	蚊	動物
1210	明治30年	夏の部	撃たんとして撃ち得ざりける蚊を憎む	蚊	動物
1211	明治30年	夏の部	海門や孤帆見る / \ 雲の峯	雲の峰	天文
1212	明治30年	夏の部	北の方に真黒な雲の峯起る	雲の峰	天文
1213	明治30年	夏の部	銅標や鞅鞅の国の雲の峯	雲の峰	天文
1214	明治30年	夏の部	夏の月をさぶ / \ と水渉り来る	夏の月	天文
1215	明治30年	夏の部	魚店と八百屋の間を夏の月	夏の月	天文
1216	明治30年	夏の部	廣き家に大きな蚊帳のほしきかな	蚊帳	人事
1217	明治30年	夏の部	山寺や蚊帳を釣らざる夜をひとり	蚊帳	人事
1218	明治30年	夏の部	明らさまに蚊帳釣てある磯家かな	蚊帳	人事
1219	明治30年	夏の部	ひとり住んで蚊帳の破れをつくろひつ	蚊帳	人事
1220	明治30年	夏の部	岳陽樓に夕立すべきけしきかな	夕立	天文
1221	明治30年	夏の部	雲の峯総の野を壓し崩れんとす	雲の峰	天文
1222	明治30年	夏の部	扇裂いて悟了と叫ぶ男かな	扇	人事
1223	明治30年	夏の部	大女郎に凶扇を渡す小女郎哉	扇	人事
1224	明治30年	夏の部	赤裸々と炎天の小屋を出でゝゆく	炎天	天文
1225	明治30年	夏の部	扇の句一字を脱したる恨み	扇	人事
1226	明治30年	夏の部	團扇もちてからの女の歩み来る	扇	人事
1228	明治30年	夏の部	滝壺に膏薬洗ふ夏の旅	夏	時候

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
1229	明治30年	夏の部	女滝男滝四十八滝五月雨	五月雨	天文
1230	明治30年	夏の部	滝のそばに大きなひさごかけてあり	滝	地理
1231	明治30年	夏の部	犠牲や滝どう / \ と夕立す	滝	地理
1232	明治30年	夏の部	滝をうしろ文覚出たり夏木立	夏木立	植物
1233	明治30年	夏の部	夏山の道窮まって滝あらはれぬ	夏山	地理
1234	明治30年	夏の部	庭前に滝をつくりいで一家すゞむ	納涼	人事
1235	明治30年	夏の部	閑古鳥をきくべくとして滝の後ろに出づ	閑古鳥	動物
1236	明治30年	夏の部	滝の上に入定したり苔の花	苔の花	植物
1237	明治30年	夏の部	木下閣滝あれば則ち祠あり	木下閣	植物
1239	明治30年	夏の部	若楓小さき橋の朱欄干	若楓	植物
1241	明治30年	夏の部	喬松林を出でず昼寐をしたるべく	晝寝	人事
1243	明治30年	夏の部	萩若く庭さゝやかに雨細く	萩若葉	植物
1245	明治30年	夏の部	日は斜つゝじが逕幾曲り	躑躅	植物
1247	明治30年	夏の部	岩清水の止まって潭となり午の月	清水	地理
1249	明治30年	夏の部	籬を排し薫風南山より来る	薫風	天文
1251	明治30年	夏の部	對座して中夜に杜鵑をきかまくす	時鳥	動物
1252	明治30年	夏の部	家を移し葵の多き庭を得つ	葵	植物
1253	明治30年	夏の部	人俗にして帷子を着たる行く	帷子	人事
1254	明治30年	夏の部	旅に病むで癒えたればつゆ正に晴る	梅雨	天文
1256	明治30年	夏の部	通辯をして心太を命じ異人かな	心太	人事
1257	明治30年	夏の部	左遷の道黄州を経て心太	心太	人事
1258	明治30年	夏の部	心太の必ず冷かなるを望む	心太	人事
1259	明治30年	夏の部	取敢へず心太を命じたる主従かな	心太	人事
1260	明治30年	夏の部	野に飢えて偶々心太をさがし得つ	心太	人事
1261	明治30年	夏の部	客僧の東より來つ心太	心太	人事
1262	明治30年	夏の部	浮屠の道たとへば心太の如し	心太	人事
1263	明治30年	夏の部	小盗人の心太を喰ふてみたりける	心太	人事
1264	明治30年	夏の部	野社に心太賣る古き女	心太	人事
1265	明治30年	夏の部	心太一荷の價幾何ぞ	心太	人事
1266	明治30年	夏の部	只心太の冷かなるがあり	心太	人事
1267	明治30年	夏の部	卓上に心太の盤大なり	心太	人事
1268	明治30年	夏の部	中に心太を厭ふひとりあり	心太	人事
1269	明治30年	夏の部	招牌や水滸の店の心太	心太	人事
1270	明治30年	夏の部	真中に心太の盤を据えてあり	心太	人事
1271	明治30年	夏の部	心太に胃の腑損ひし恨かな	心太	人事
1272	明治30年	夏の部	家のうしろ灘声急にして明易き	短夜	時候
1273	明治30年	夏の部	短夜を灘上に泊す水の声	短夜	時候
1274	明治30年	夏の部	短夜や後宮の美女装ひを凝す	短夜	時候
1276	明治30年	夏の部	大早に雲霓を望む海の上	早	天文
1277	明治30年	夏の部	路傍の撫子折りつ / \ 行く	撫子	植物
1278	明治30年	夏の部	下閣を甲冑鮮かなる出でつ	木下閣	植物
1279	明治30年	夏の部	行者ひとり富士を下るに行逢ひつ	富士詣	人事
1280	明治30年	夏の部	はねる虫いさゝか蚤に似て非なり	蚤	動物
1282	明治30年	夏の部	夏瘦の汝を憐む人もなし	夏瘦	人事
1283	明治30年	夏の部	夏の月音楽起る鴻臚館	夏の月	天文
1284	明治30年	夏の部	水打て静かに對す木魚かな	打水	人事
1285	明治30年	夏の部	暑き日を同行凡そ四五十人	暑さ	時候
1286	明治30年	夏の部	道蠻に入り雨の日多き土用かな	土用	時候

夏の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
1287	明治30年	夏の部	海の上を夕立の雲飛揚せり	夕立	天文
1289	明治30年	夏の部	夜道ゆけば山蛭落るあまたゝび	蛭	動物
1290	明治30年	夏の部	覇氣高く蛭が小島に夕立す	蛭	動物
1291	明治30年	夏の部	すさまじく山蛭の屍横はる	蛭	動物
1292	明治30年	夏の部	雲蒸すや泥中の蛭化けぬべく	蛭	動物
1293	明治30年	夏の部	踏迷ひ山蛭多き山に入る	蛭	動物
1294	明治30年	夏の部	瑞艸の根を湧き出づる清水かな	清水	地理
1295	明治30年	夏の部	悟了すらく鳴焼はこれ既成佛	鳴	動物
1296	明治30年	夏の部	土用干して一物を看破了	蟲干	人事
1297	明治30年	夏の部	蛸や食堂に下る法師原	蛸	動物
1298	明治30年	夏の部	癖奇なり一ツ葉の鉢并べたる	一ツ葉	植物
1299	明治30年	夏の部	坐に入て漫に汗拭を求めたり	汗拭	人事
1301	明治30年	夏の部	打磐やむで暁に蓮の白き咲く	蓮	植物
1302	明治30年	夏の部	僧房や蓮に飯喰ふ五六人	蓮	植物
1303	明治30年	夏の部	夜僧房に宿して暁に蓮を見る	蓮	植物
1304	明治30年	夏の部	繽紛と蓮花赫奕と菩薩夢	蓮	植物
1305	明治30年	夏の部	池に臨んで白蓮房と額したり	蓮	植物
1306	明治30年	夏の部	涼しさは漁戸断續のともしかな	涼し	時候
1308	明治30年	夏の部	納涼台に詩をつくるべく君帰る	納涼	人事
1310	明治30年	夏の部	大いなる芭蕉のかげに涼むべし	涼し	時候
1312	明治30年	夏の部	仰向くや昼寝の胸毛風が吹く	晝寝	人事
1314	明治30年	夏の部	納涼台を撤し恰も好きを見る	納涼	人事
1316	明治30年	夏の部	すこし飛べる蝉唾にして見えずなり	蝉	動物
1318	明治30年	夏の部	ところ／＼蚊にさゝれたるが腫れ痛む	蚊	動物
1320	明治30年	夏の部	夙に起きて若葉に對す頭痛かな	若葉	植物
1321	明治30年	夏の部	下閣に嘯いて行く我に病あり	木下閣	植物
1322	明治30年	夏の部	眼を病むであやめの汀に下り立ちぬ	あやめ	植物
1323	明治30年	夏の部	夏の雲赤黒くして人瘡を病む	夏の雲	天文
1324	明治30年	夏の部	夏瘦を君にはをかしがらせ給ふ	夏瘦	人事
1325	明治30年	夏の部	此夏を一の君いたう瘦せ給ふ	夏瘦	人事
1326	明治30年	夏の部	蚊帳のそとのくすしとおん物語かな	蚊帳	人事
1327	明治30年	夏の部	夏瘦や君をまほに得も見給はず	夏瘦	人事
1328	明治30年	夏の部	夏瘦せて十二宮樓の人恨む	夏瘦	人事
1329	明治30年	夏の部	後宮や人夏瘦せて君王を望む	夏瘦	人事
1330	明治30年	夏の部	暁装や人夏瘦もし給はず	夏瘦	人事
1331	明治30年	夏の部	夏瘦を貧にして機による物うしや	夏瘦	人事
1332	明治30年	夏の部	病みてあれば蚊遣火焚かんよしもなし	蚊遣	人事
1333	明治30年	夏の部	病みてより長へに捲かず青簾	青簾	人事
1334	明治30年	夏の部	病床や夢に妹がりに涼みける	納涼	人事
1335	明治30年	夏の部	癪を切て少し涼しき夕かな	涼し	時候
1336	明治30年	夏の部	縁に出でゝ癪をきれば大に夕立す	夕立	天文
1337	明治30年	夏の部	主蚊遣す従者薬を得て帰る	蚊遣	人事
1338	明治30年	夏の部	足の甲の膏薬剥がす清水かな	清水	地理
1339	明治30年	夏の部	虫干や隅に堆き傷寒論	蟲干	人事
1340	明治30年	夏の部	施薬院の門に昼寐の男かな	晝寝	人事
1341	明治30年	夏の部	少し病みて顔白き彌宜の御祓哉	御祓	人事
1342	明治30年	夏の部	蚊にも堪へず薬を蚊帳の中に煮る	蚊	動物
1343	明治30年	夏の部	夕立や雷落ちてより頭痛やむ	夕立	天文

夏の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
1344	明治30年	夏の部	清水汲んで主の創口を洗ひける	清水	地理
1345	明治30年	夏の部	夏六月南方瘴癘の地に陣す	六月	時候
1346	明治30年	夏の部	扁鵲が君に葛水を奉る	葛水	人事
1347	明治30年	夏の部	川狩に何ぞ疝氣を恐れんや	川狩	人事
1348	明治30年	夏の部	病僧の蓮の汀を徘徊す	蓮	植物
1349	明治30年	夏の部	赤き幣と鮓供へたり痘の神	鮓	人事
1350	明治30年	夏の部	道連の漢薬を説く夏野かな	夏野	地理
1351	明治30年	夏の部	妻もなき夏書の男病みほうけ	夏書	人事
1352	明治30年	夏の部	用ゐられず帰て病みつ麦の秋	麦の秋	時候
1353	明治30年	夏の部	背に疝を発して憤る蚊帳の中	蚊帳	人事
1354	明治30年	夏の部	病める人の早瓜ほしとぞ申越す	瓜	植物
1355	明治30年	夏の部	枕元の薬瓶に蠅たかりたる	蠅	動物
1356	明治30年	夏の部	路にして暑さに病むと郵便す	暑さ	時候
1357	明治30年	夏の部	病院の門に集へる日傘かな	日傘	人事
1358	明治30年	夏の部	病院の窓あけて見る若葉かな	若葉	植物
1359	明治30年	夏の部	臨月に衣更へたる女かな	更衣	人事
1360	明治30年	夏の部	夏痩せて異人の妻の医師を訪ふ	夏瘦	人事
1361	明治30年	夏の部	看護婦の白き衣や夏衣	夏衣	人事
1362	明治30年	夏の部	此夏を諸国大いに疫をやむ	夏	時候
1363	明治30年	夏の部	病臥して夢あしき夜半を子規	時鳥	動物
1364	明治30年	夏の部	蚊帳を出でつ国歩艱難にして吾病めり	蚊帳	人事
1365	明治30年	夏の部	あるじ病みて卯の花垣根しどろなり	卯の花	植物
1366	明治30年	夏の部	明けやすき夜を苦しげに咳嗽す	短夜	時候
1367	明治30年	夏の部	戀に病みて音をのみぞ泣く祭かな	祭	人事
1368	明治30年	夏の部	短夜を心中ありと呼はりぬ	短夜	時候
1369	明治30年	夏の部	後宮の人夏痩せて曉装す	夏瘦	人事
1370	明治30年	夏の部	四十雀の五十雀と呼ばるゝ恨かな	雑	雑
1371	明治30年	夏の部	目白去って頬赤来る日向かな	雑	雑
2262	明治31年	夏の部	藤の葉の窓にかぶさり夏に入る	夏	時候
2264	明治31年	夏の部	だぶ / \ と浴せかけた甘茶かな	甘茶	人事
2265	明治31年	夏の部	佛さまの産湯貰ひに参らうぞ	仏生会	人事
2266	明治31年	夏の部	子規夜舩に上る蜀の客	時鳥	動物
2268	明治31年	夏の部	水打て松籟起る四睡の凶	打水	人事
2269	明治31年	夏の部	妹がりを卯の花くだしたそがるゝ	卯の花腐し	天文
2270	明治31年	夏の部	水打てば泥亀の首ちぢめたる	打水	人事
2271	明治31年	夏の部	碁に倦むで餘花にあけたる小窓哉	餘花	植物
2273	明治31年	夏の部	老いし妓の衣更へたり単色	更衣	人事
2275	明治31年	夏の部	町中に地車を押す暑さか那	暑さ	時候
2276	明治31年	夏の部	薔薇園のせうび買ひたる異人哉	薔薇	植物
2278	明治31年	夏の部	百姓の筍を送る家例か那	筍	植物
2279	明治31年	夏の部	筍の分野争ふきほひか那	筍	植物
2280	明治31年	夏の部	藪小さく筍瘦せて伸びてけり	筍	植物
2281	明治31年	夏の部	筍の杉の木の間に伸びてけり	筍	植物
2282	明治31年	夏の部	筍の皮棄ててに出づ小川か那	筍	植物
2283	明治31年	夏の部	縁先に筍の土こぼれけり	筍	植物
2284	明治31年	夏の部	筍を掘りをれば竹の雫か那	筍	植物
2285	明治31年	夏の部	竹藪に筍盗む男か那	筍	植物
2286	明治31年	夏の部	七賢の筍飯に會したる	筍	植物

夏の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
2287	明治31年	夏の部	筍を盗む竹原月夜か那	筍	植物
2288	明治31年	夏の部	筍に妙なる僧や一ト筆画	筍	植物
2289	明治31年	夏の部	去年買ひし筍賣の来りけり	筍	植物
2290	明治31年	夏の部	筍の伸びたきまゝに伸びにけり	筍	植物
2292	明治31年	夏の部	尼寺に少しばかり咲く紅の花	紅花	植物
2293	明治31年	夏の部	雨蛙宮の森より暮れかゝる	雨蛙	動物
2294	明治31年	夏の部	垣越に水打つ女ちよと見えし	打水	人事
2295	明治31年	夏の部	美少年の名ありかすりの單物	単衣	人事
2296	明治31年	夏の部	さしみ皿にいさゝかの蓼緑なり	蓼	植物
2297	明治31年	夏の部	けふの日の午の刻よりついでかな	梅雨	天文
2299	明治31年	夏の部	狼狽の子子沈むをかしけり	子子	動物
2300	明治31年	夏の部	目すゞしく眉秀でたるが夏書か那	夏書	人事
2301	明治31年	夏の部	道場の昼鎖したるあふちか那	棟の花	植物
2302	明治31年	夏の部	馬を下りて床几涼しさを磯馴松	涼し	時候
2303	明治31年	夏の部	涼風に画箋展べたる二階か那	涼風	天文
2304	明治31年	夏の部	短夜の雨戸あけたる二階か那	短夜	時候
2305	明治31年	夏の部	二階かりて画師がこもりぬ五月雨	五月雨	天文
2307	明治31年	夏の部	鱗形の雲うらゝかや湖の上	麗	時候
2308	明治31年	夏の部	日蝕の雲黄色なり秋の水	秋の水	地理
2309	明治31年	夏の部	油繪や秋日田家雲の色	秋の日	天文
2310	明治31年	夏の部	雨雲の蔽ひかさなる若葉哉	若葉	植物
2311	明治31年	夏の部	浴みして衣かへて山の雲を見る	更衣	人事
2312	明治31年	夏の部	太陽の雲割て出るあつさ哉	暑さ	時候
2313	明治31年	夏の部	巖上の雲の影落つ清水哉	清水	地理
2314	明治31年	夏の部	秋立つや峠の茶屋のあけの雲	立秋	時候
2315	明治31年	夏の部	師が活けし裁縫室のあやめ哉	あやめ	植物
2316	明治31年	夏の部	當直に女生徒あやめ持ち来る	あやめ	植物
2317	明治31年	夏の部	清水酌みに松脂臭き翁哉	清水	地理
2318	明治31年	夏の部	飯喰ふて納涼に出たる旅籠か那	納涼	人事
2319	明治31年	夏の部	炎天の砂利道きしる車か那	炎天	天文
2320	明治31年	夏の部	日盛の天井低き二階か那	日盛	天文
2321	明治31年	夏の部	嵩高にぼる負ふてゆく暑か那	暑さ	時候
2322	明治31年	夏の部	麦酒盆に麦酒水菓子納涼台	雑	雑
2323	明治31年	夏の部	葉柳の窓打拂ふ雫かな	夏柳	植物
2324	明治31年	夏の部	涼風や紗の窓掛を吹きまくり	涼風	天文
2325	明治31年	夏の部	短夜を語明かしてしまひけり	短夜	時候
2326	明治31年	夏の部	涼しさの尺八吹いて橋を行く	涼し	時候
2327	明治31年	夏の部	川風の蛍吹き入る裏二階	螢	動物
2328	明治31年	夏の部	葉柳に蛍の籠を吊しけり	雑	雑
2329	明治31年	夏の部	鉦太鼓野に見世物の小屋あつし	暑さ	時候
2330	明治31年	夏の部	樂隊の森を出て来る夕涼し	涼し	時候
2331	明治31年	夏の部	川風の蠟燭を吹く涼しかり	涼し	時候
2332	明治31年	夏の部	壇上に蚊も寄りつかぬ咒文か那	蚊	動物
2333	明治31年	夏の部	虫干の古繪に夕日壇の浦	蟲干	人事
2334	明治31年	夏の部	短夜の陸地見えたる船路哉	短夜	時候
2335	明治31年	夏の部	葉柳の月に稽古やくさり鎌	夏柳	植物
2961	明治32年	夏の部	羽あり飛ぶ堂のうしろや日の落つる	羽蟻	動物
2962	明治32年	夏の部	水の上に羽蟻飛行く夜明かな	羽蟻	動物

夏の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
2963	明治32年	夏の部	羽蟻とぶ葎の簾や縄朽ちし	羽蟻	動物
2964	明治32年	夏の部	松風に羽蟻吹かるゝ茶店かな	羽蟻	動物
2965	明治32年	夏の部	夥しき羽ありの庭や雨上り	羽蟻	動物
2966	明治32年	夏の部	樟の根に神ともならで羽蟻哉	羽蟻	動物
2967	明治32年	夏の部	日は赫と羽あり画棟に飛上る	羽蟻	動物
2968	明治32年	夏の部	竹縁に飛ばぬ羽蟻や經机	羽蟻	動物
2969	明治32年	夏の部	羽ありとんで紫の花にとまりけり	羽蟻	動物
2970	明治32年	夏の部	羽生へて飛出すありの思ひかな	羽蟻	動物
2971	明治32年	夏の部	羽ありとぶ檣の上や日の光り	羽蟻	動物
2972	明治32年	夏の部	水打てば羽蟻飛つく草の上	羽蟻	動物
2974	明治32年	夏の部	五畝の畑に藍も植ゑけり雨多き	藍蒔く	人事
2975	明治32年	夏の部	草取るや藍に撫子のこぼれ咲き	雑	雑
2976	明治32年	夏の部	藍瘦せて蓼丈高き畑かな	蓼	植物
2977	明治32年	夏の部	草の中に藍もまじりて草の中	藍	植物
2978	明治32年	夏の部	藍苗の畑まで鶏の遊びけり	藍蒔く	人事
2979	明治32年	夏の部	藍うゑて古きかめなど畑の隅	藍蒔く	人事
2980	明治32年	夏の部	山中や悉く藍をうゑし畑	藍蒔く	人事
2981	明治32年	夏の部	商人を泊めたる宿や藍畑	藍	植物
2982	明治32年	夏の部	照りつゞく藍の畑のほこりかな	藍	植物
2983	明治32年	夏の部	出水の藍の畑をひたしけり	藍	植物
2984	明治32年	夏の部	藍多く山路曇りし他國かな	藍	植物
2986	明治32年	夏の部	大木のしだれ櫻や実の多き	櫻の實	植物
2987	明治32年	夏の部	夢に見し実櫻となる故郷かな	櫻の實	植物
2988	明治32年	夏の部	試みにさくらの実かむちよと渋き	櫻の實	植物
2989	明治32年	夏の部	実ざくらを見上る庭や知らぬ鳥	櫻の實	植物
2990	明治32年	夏の部	庭のさくらに鳥の女夫や実をこぼす	櫻の實	植物
2991	明治32年	夏の部	中庭や池にさくらの実が熟す	櫻の實	植物
2992	明治32年	夏の部	柵結ひて実も結ばざる桜かな	櫻の實	植物
2993	明治32年	夏の部	実取る子のさくらに上る岐れ枝	櫻の實	植物
2994	明治32年	夏の部	桜子や鳥飛起つ宮まうで	櫻の實	植物
2995	明治32年	夏の部	桜の実自から落つる山路かな	櫻の實	植物
2997	明治32年	夏の部	兒吹くや若葉の山に人上る	若葉	植物
2998	明治32年	夏の部	山の井に若葉かぶさり祠かな	若葉	植物
2999	明治32年	夏の部	堂荒て鐘にさし出し若葉哉	若葉	植物
3000	明治32年	夏の部	舞殿や若葉の雫吹きつくる	若葉	植物
3001	明治32年	夏の部	石逕の故郷に近き若葉哉	若葉	植物
3002	明治32年	夏の部	学室の若葉月夜や若法師	若葉	植物
3003	明治32年	夏の部	若葉して間に人住む庵かな	若葉	植物
3004	明治32年	夏の部	若葉を出で岩鼻に立つ微風哉	若葉	植物
3005	明治32年	夏の部	知らぬ木や若葉の中に白き花	若葉	植物
3006	明治32年	夏の部	石逕を蛇の横ぎる若葉かな	若葉	植物
3008	明治32年	夏の部	かはせみの嘴をのがれし小魚かな	翡翠	動物
3009	明治32年	夏の部	かはせみの小魚落しぬ藤の棚	翡翠	動物
3010	明治32年	夏の部	かはせみや水緑なる朝月夜	翡翠	動物
3011	明治32年	夏の部	かはせみや汀飛び起つ草のゆれ	翡翠	動物
3012	明治32年	夏の部	翡翠や芦四五本に夜明けたる	翡翠	動物
3013	明治32年	夏の部	たま / \ や翡翠飛去る浅き水	翡翠	動物
3014	明治32年	夏の部	かはせみのとまる一本柳かな	翡翠	動物

夏の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
3015	明治32年	夏の部	山陰やかはせみ去て暮るゝ池	翡翠	動物
3016	明治32年	夏の部	かはせみや魚ひそみたる柳の根	翡翠	動物
3017	明治32年	夏の部	小さき洲にかはせみ止り朝の雨	翡翠	動物
3018	明治32年	夏の部	かはせみのとまる巖や草すこし	翡翠	動物
3019	明治32年	夏の部	かはせみや水紋をなす淵の色	翡翠	動物
3020	明治32年	夏の部	かはせみの羽より雫したゝりし	翡翠	動物
3021	明治32年	夏の部	板塀や芭蕉玉巻く比叡の雲	芭蕉玉巻	植物
3022	明治32年	夏の部	門口や柿の花ちる油うり	柿の花	植物
3023	明治32年	夏の部	漣や岩を離れぬ羽ぬけ鴨	羽抜鳥	動物
3024	明治32年	夏の部	大比叡の雲に芭蕉の巻葉哉	芭蕉玉巻	植物
3025	明治32年	夏の部	一八の屋根に鶯舞ふ日和哉	一八	植物
3026	明治32年	夏の部	神前や蓮の浮葉に灯のうつる	蓮の浮葉	植物
3027	明治32年	夏の部	戸明くるや蚊がとんで行く明の星	蚊	動物
3028	明治32年	夏の部	取出す袷わびしや酒の痕	袷	人事
3029	明治32年	夏の部	祭すぎて葵をはさむ歌集かな	葵	植物
3030	明治32年	夏の部	盤石や雫したゝる桐の花	桐の花	植物
3031	明治32年	夏の部	一門の神草かざす祭かな	祭	人事
3032	明治32年	夏の部	親よ子よ瓜や茄子の花盛り	雑	雑
3033	明治32年	夏の部	繪日今の京には清き流あり	日傘	人事
3035	明治32年	夏の部	穂麦わけて舞子の濱に出でしかな	麥	植物
3036	明治32年	夏の部	弟子僧のしばし交りぬ印地打	印地打	人事
3037	明治32年	夏の部	初なりの胡瓜うれしや朝の雨	瓜	植物
3038	明治32年	夏の部	枝蛙苔に落ちけり古き石	雨蛙	動物
3039	明治32年	夏の部	乗合や人の戀きく虎が雨	虎が雨	天文
3040	明治32年	夏の部	破産して穂麦の國を出づるかな	麥	植物
3041	明治32年	夏の部	牡丹亭に画箋を展べし唐子かな	牡丹	植物
3042	明治32年	夏の部	衣更へて舟に上りぬ暁の風	更衣	人事
3043	明治32年	夏の部	灌佛の甘茶冷めたし暮の雲	仏生会	人事
3044	明治32年	夏の部	石竹の露こぼれけり白き砂	石竹	植物
3045	明治32年	夏の部	摘み残す茶の木の雨や夏に入る	夏	時候
3047	明治32年	夏の部	鶯の虎溪に老いし別かな	鶯	動物
3048	明治32年	夏の部	大矢数馬乗りすてし小殿原	矢數	人事
3049	明治32年	夏の部	火串消えて草吹く風や暁近し	照射	人事
3050	明治32年	夏の部	拔出でゝ河骨咲くや金氣水	河骨	植物
3051	明治32年	夏の部	青梅や草の中なる古き幹	梅の實	植物
3052	明治32年	夏の部	鶉遣ひの物も云はざる愚かな	鶉飼	人事
3053	明治32年	夏の部	漣や松葉散落つ水の上	松落葉	植物
3054	明治32年	夏の部	葉柳や水ひた / \ と出町橋	夏柳	植物
3055	明治32年	夏の部	日のもるゝ松の落葉や南禅寺	松落葉	植物
3056	明治32年	夏の部	紫や水に雨ふる杜若	杜若	植物
3057	明治32年	夏の部	麦の穂や逢坂山に閑もなし	麥	植物
3058	明治32年	夏の部	鶯の老いしも知らず泣音かな	老鶯	動物
3059	明治32年	夏の部	草臥れし穂麦の路や寺に入る	麥	植物
3060	明治32年	夏の部	湖も見えて玉巻く芭蕉緑なり	芭蕉玉巻	植物
3061	明治32年	夏の部	てふ / \ の松をはなれて浜辺かな	蝶	動物
3062	明治32年	夏の部	須磨の家の背戸は名所や麦の風	麥	植物
3063	明治32年	夏の部	青嵐須磨をはなるゝ船屋形	青嵐	天文
3065	明治32年	夏の部	耕すやげんげ色濃き水たまり	げんげ	植物

夏の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
3066	明治32年	夏の部	嵯峨村に旧蹟多し竹の秋	竹の秋	植物
3068	明治32年	夏の部	したゝりや雲の音きく石の上	滴り	地理
3070	明治32年	夏の部	したゝりの筏下るや大堰川	滴り	地理
3071	明治32年	夏の部	年々を鮎の子上る行方哉	鮎	動物
3072	明治32年	夏の部	蕩漾の若葉の上や鮎のぼる	雑	雑
3074	明治32年	夏の部	野々宮は竹落葉するばかりなり	竹落葉	植物
3076	明治32年	夏の部	さら / \ と屋根はしる竹の落葉かな	竹落葉	植物
3077	明治32年	夏の部	雪隠や昔の窓の柿若葉	柿若葉	植物
3079	明治32年	夏の部	草の中に墓さがし得つ羽蟻とぶ	羽蟻	動物
3081	明治32年	夏の部	撞鐘のほとりに松の落葉かな	松落葉	植物
3083	明治32年	夏の部	嵯峨の山に鐘聞えけり松葉散る	松落葉	植物
3085	明治32年	夏の部	かくや / \ 神輿かきゆく若葉かな	若葉	植物
3087	明治32年	夏の部	閑伽酌むで若葉見上る目はすずし	若葉	植物
3089	明治32年	夏の部	踏分くる野ばらの花や脛痒し	薔薇	植物
3091	明治32年	夏の部	古井に枝蛙落つ洒ぎかな	雨蛙	動物
3093	明治32年	夏の部	日にやけし馬士もまじるや御身拭	日焼	人事
3095	明治32年	夏の部	廣澤や真菰の上の昼の月	真菰	植物
3096	明治32年	夏の部	水湧くや物なつかしき苔の花	苔の花	植物
3097	明治32年	夏の部	蕁菜の花咲く池となりにけり	蕁菜	植物
3098	明治32年	夏の部	蓴とる舟の小唄や宵月夜	蓴菜	植物
3099	明治32年	夏の部	病葉の下にあやしき祠かな	病葉	植物
3100	明治32年	夏の部	椎咲くや油に黒む石灯籠	椎の花	植物
3101	明治32年	夏の部	谷川や石に魚見る百合の花	百合	植物
3102	明治32年	夏の部	宿おりの女訪ひよる粽かな	粽	人事
3103	明治32年	夏の部	宿下りの粽結ひけり五年ぶり	粽	人事
3104	明治32年	夏の部	さらし場に花咲く草の雫かな	晒布	人事
3105	明治32年	夏の部	日蝕の人群るゝなり麦の秋	麦の秋	時候
3106	明治32年	夏の部	生節に木葉かけたり舟がつく	生節	人事
3107	明治32年	夏の部	露切って旦の汁に投げけり	露	植物
3108	明治32年	夏の部	水のんで露の葉すつる山路哉	露	植物
3109	明治32年	夏の部	金銀の氣を吹く山の清水哉	清水	地理
3110	明治32年	夏の部	湖も見えて寺に玉巻く芭蕉哉	芭蕉玉巻	植物
3111	明治32年	夏の部	常盤木や落葉吹散る力餅	常盤木落葉	植物
3112	明治32年	夏の部	境内や銀杏若葉す神の水	若葉	植物
3113	明治32年	夏の部	御祭の鬢髪白き葵かな	葵	植物
3114	明治32年	夏の部	木の間より引き出でにけり競馬	競馬	人事
3115	明治32年	夏の部	葉柳の橋にせまりし神輿かな	夏柳	植物
3116	明治32年	夏の部	観音や若楓透く日の光り	若楓	植物
3117	明治32年	夏の部	尼が愛す萩の若葉や清閑寺	萩若葉	植物
3119	明治32年	夏の部	官人のよき帷子や椰子の下	帷子	人事
3120	明治32年	夏の部	帷子を浣ふあしたの流か那	帷子	人事
3121	明治32年	夏の部	帷子に草の香のぼる故郷か那	帷子	人事
3122	明治32年	夏の部	人の娘帷子を着て宿下り	帷子	人事
3124	明治32年	夏の部	草の上にはら / \ 雨や百合の花	百合	植物
3125	明治32年	夏の部	水湧くや草の葉末の雲の峯	雲の峰	天文
3126	明治32年	夏の部	麦藁の帽吹かれけり水の上	夏帽子	人事
3127	明治32年	夏の部	雲濕ふ保津の川瀬や夏木立	夏木立	植物
3128	明治32年	夏の部	打水にぬれし茶店の柱かな	打水	人事

夏の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
3130	明治32年	夏の部	うゑまぜや紫陽花も咲く異種	紫陽花	植物
3131	明治32年	夏の部	山科の田植さびしや竹の風	田植	人事
3132	明治32年	夏の部	草衣を并木にかけし裸かな	裸	人事
3133	明治32年	夏の部	闇涼し草の根をゆく水の音	涼し	時候
3135	明治32年	夏の部	暁の杉に星見る蚊帳の中	蚊帳	人事
3137	明治32年	夏の部	藍うゑし畑に水引く微風かな	藍蒔く	人事
3139	明治32年	夏の部	麦刈て近江の湖の碧きかな	麦刈	人事
3141	明治32年	夏の部	木の間より湖の風吹く田植哉	田植	人事
3143	明治32年	夏の部	涼風の投網の水にぬれしかな	雑	雑
3145	明治32年	夏の部	太閤の千疊敷や茶摘歌	茶摘	人事
3147	明治32年	夏の部	山門や椎の花散る黄檗寺	椎の花	植物
3148	明治32年	夏の部	萬木の濕ふ山や五月雲	梅雨雲	天文
3150	明治32年	夏の部	涼しけや角なき鹿の草に臥す	涼し	時候
3151	明治32年	夏の部	大佛を見れば涼しき男哉	涼し	時候
3152	明治32年	夏の部	蘭を植ゑし愚庵に帰る雲涼し	涼し	時候
3153	明治32年	夏の部	狗ころと和尚と似たり夕すゞみ	納涼	人事
3154	明治32年	夏の部	水に散る神輿洗のかぶり哉	神輿洗い	人事
3155	明治32年	夏の部	飄々と神輿を洗ふ袖涼し	神輿洗い	人事
3156	明治32年	夏の部	水を吹いて鱈に到る風涼し	涼し	時候
3158	明治32年	夏の部	梅干にかしま立する翁かな	梅干す	人事
3159	明治32年	夏の部	木立出づる清き流や夏神樂	夏神樂	人事
3160	明治32年	夏の部	午近く土用の雲の起りけり	土用	時候
3161	明治32年	夏の部	散尽すねむの花見る病哉	合歓の花	植物
3162	明治32年	夏の部	塗盆の水したゝるや夏氷	氷水	人事
3163	明治32年	夏の部	空蟬や土をつかんで寂莫と	空蟬	動物
3164	明治32年	夏の部	月代や川狩の舟遊る	川狩	人事
3165	明治32年	夏の部	草の根に漣立つや水馬	水馬	動物
3166	明治32年	夏の部	雨乞の修験者谷に下りけり	雨乞	人事
3167	明治32年	夏の部	青鷺の東に飛ぶや暁の空	青鷺	動物
3169	明治32年	夏の部	水涼し顔をあぐれば東山	涼し	時候
3170	明治32年	夏の部	賣りに出る青蕃椒一荷かな	青唐辛子	植物
3171	明治32年	夏の部	芋の葉や角大豆の花あだにして	ささげ	植物
3172	明治32年	夏の部	朝起の小便したる青田かな	青田	地理
3173	明治32年	夏の部	岩の下を水流れけり青すゝき	青芒	植物
3174	明治32年	夏の部	鮎賣の水こぼしたる山路かな	鮎	動物
3175	明治32年	夏の部	醤油賣の吾に先だつ夏野哉	夏野	地理
3176	明治32年	夏の部	夏草に温泉の烟立つ軒端かな	夏草	植物
3177	明治32年	夏の部	草の上に帽子おきたる清水かな	清水	地理
3178	明治32年	夏の部	木の枝に脱ぎてかけたり夏羽織	夏羽織	人事
3179	明治32年	夏の部	墓の木に巣を張る蛛や苔の花	苔の花	植物
3180	明治32年	夏の部	雲帰る寺の昼寐の枕かな	晝寝	人事
3181	明治32年	夏の部	虫干の尼もあはれや寂光院	蟲干	人事
3182	明治32年	夏の部	夏艸に瀧のしぶきや白き花	夏草	植物
3183	明治32年	夏の部	瀧にすずみ山蟻に躡さゝれけり	納涼	人事
3829	明治33年	夏の部	青すたれ餘花に閑なる庭の雨	餘花	植物
3830	明治33年	夏の部	方丈は眼さめ玉はず蓮の寺	蓮	植物
3831	明治33年	夏の部	名所の草も螢も賣られけり	螢	動物
3832	明治33年	夏の部	晝顔の花小さくぞ咲出でし	晝顔	植物

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
3833	明治33年	夏の部	子子や花一つ咲く燕子花	子子	動物
3834	明治33年	夏の部	鶉籜も淋くなりぬ御還幸	鶉飼	人事
3835	明治33年	夏の部	虫干や山寺覗く小嘸囉	蟲干	人事
3836	明治33年	夏の部	雨乞や日は赫々と照り渡り	雨乞	人事
3837	明治33年	夏の部	晒井のよき水たまる旦那	井戸替え	人事
3838	明治33年	夏の部	火を焚くや烟もれ出る夏木立	夏木立	植物
3839	明治33年	夏の部	武者修業或は照射したりけり	照射	人事
3840	明治33年	夏の部	照射してひとりの母を養へり	照射	人事
3841	明治33年	夏の部	ともしして邪氣を受けたる病哉	照射	人事
3842	明治33年	夏の部	照射する男こわがり駕籠の中	照射	人事
3843	明治33年	夏の部	頭巾取って名告合たる照射哉	照射	人事
3844	明治33年	夏の部	ともしして戻る男や子を愛す	照射	人事
3845	明治33年	夏の部	草むらに大蛇を見たる火串哉	照射	人事
3846	明治33年	夏の部	火串して駆落者と見たりけり	照射	人事
3847	明治33年	夏の部	照射して犠牲をけんず山の神	照射	人事
3848	明治33年	夏の部	頭巾取れば美少年なりねらひ狩	照射	人事
3849	明治33年	夏の部	夢に見し木立の中の百合の花	百合	植物
3850	明治33年	夏の部	百合多き小嶋に神を祀りけり	百合	植物
3851	明治33年	夏の部	岩蔭に小さく咲きたり百合の花	百合	植物
3852	明治33年	夏の部	百合活けて簾に風を遮りぬ	百合	植物
3853	明治33年	夏の部	百合の花折り持ちて暮山を下る	百合	植物
3854	明治33年	夏の部	炭かまの跡の泉や百合の花	百合	植物
3855	明治33年	夏の部	青芒は馬に喰はれぬ百合の花	百合	植物
3856	明治33年	夏の部	山百合のはなべらを打つ小蛇かな	百合	植物
3857	明治33年	夏の部	夜遊ぶ女の神や百合の花	百合	植物
3858	明治33年	夏の部	谷川を越えて逕の百合の花	百合	植物
3859	明治33年	夏の部	佛法を誇って河豚と生れけん	河豚	動物
3860	明治33年	夏の部	佛像に対して奈良の春寒し	春寒	時候
3861	明治33年	夏の部	元日の佛にともす老となり	元日	時候
3862	明治33年	夏の部	灌佛や見上ぐれば皆若葉山	仏生会	人事
3863	明治33年	夏の部	雨のほとけそゞろに寒きおん姿	寒さ	時候
3864	明治33年	夏の部	川中の石の名所や青芒	青芒	植物
10515	明治33年	夏の部	名の知れぬ墓の乱れて苔の花	苔の花	植物
10521	明治33年	夏の部	扇置く亭の遊びや夜に入り	扇	人事
10563	明治33年	夏の部	哀への蛍あはれむ閏月	蛍	植物
10514	明治33年	夏の部	松杉聞く沼青々として閑古鳥	閑古鳥	動物
10547	明治33年	夏の部	野の草の折んとぞ思ふ花もなし	野の草	植物
10557	明治33年	夏の部	天風は後れて来る清水かな	清水	地理
10558	明治33年	夏の部	轉宅の物の花もなき土用かな	土用	時候
10559	明治33年	夏の部	清國の内亂をきく晝寐かな	晝寐	人事
10560	明治33年	夏の部	新宅に雨よろこぶ青田かな	青田	地理
10561	明治33年	夏の部	釣床や下を流るゝ水の石	釣床	人事
10564	明治33年	夏の部	糞舟の野川を下り雲の峰	雲の峰	天文
4021	明治34年	夏の部	青簾捲かんも物ぞ憂かりける	青簾	人事
4022	明治34年	夏の部	明易き旗へんほんどひるがへり	短夜	時候
4023	明治34年	夏の部	緑袍の人に逢ひけり毛虫の精	毛蟲	動物
4024	明治34年	夏の部	くたびれて皆寐入りたる清水かな	清水	地理
4025	明治34年	夏の部	風邪の氣の物ほしからず夏蜜柑	夏蜜柑	植物

夏の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
4026	明治34年	夏の部	白藤や昔女のうらみ塚	藤の花	植物
4027	明治34年	夏の部	一ツ新茶一袋去来より	新茶	人事
4028	明治34年	夏の部	染物の浅黄萌黄や花卯木	卯の花	植物
4029	明治34年	夏の部	葉櫻や射反らしたる白羽の矢	葉櫻	植物
4030	明治34年	夏の部	辨慶の髭もそりたる袷哉	袷	人事
4031	明治34年	夏の部	即景の茄子俗なり俳諧師	茄子	植物
4032	明治34年	夏の部	露の葉を披けば水の流哉	露	植物
4033	明治34年	夏の部	大澤の露のしげりや電光	雑	雑
4034	明治34年	夏の部	露の香のいやしからざる料理哉	露	植物
4035	明治34年	夏の部	鮓おして市の心に遠さかり	鮓	人事
4036	明治34年	夏の部	絵紙賣の大津の店や藤の花	藤の花	植物
4037	明治34年	夏の部	夕市の店の鱸や月上る	鱸	動物
4038	明治34年	夏の部	玫瑰の花咲いて海碧りなり	玫瑰	植物
4039	明治34年	夏の部	日の透くや柿の花ちる柿林	柿の花	植物
4040	明治34年	夏の部	少年の夏帽ぬぎし目すゞし	夏帽子	人事
4041	明治34年	夏の部	紫陽花に取乱したる妬かな	紫陽花	植物
4042	明治34年	夏の部	青天に秀でゝ桐の花咲きぬ	桐の花	植物
4043	明治34年	夏の部	冷やかな香齧舐りぬたかむしろ	簞	人事
4044	明治34年	夏の部	蚊を打て物狂はしき修法哉	蚊	動物
4045	明治34年	夏の部	虎を待てば風も起りぬほととぎす	時鳥	動物
4046	明治34年	夏の部	卯の花のうしと見る世や仮住み	卯の花	植物
4047	明治34年	夏の部	蝸牛の静かに物の花を見る	蝸牛	動物
4048	明治34年	夏の部	菩提とは清水の如き心かな	清水	地理
4049	明治34年	夏の部	一面に花咲く苔や雲の影	苔の花	植物
4051	明治34年	夏の部	物云へば共に愚かにして涼し	涼し	時候
4052	明治34年	夏の部	抱箆の夢凡ならず覚えけり	竹夫人	人事
4053	明治34年	夏の部	瓜茄子ころがり合へるえにし哉	雑	雑
4054	明治34年	夏の部	狂歌師の買ひむさぼりぬ初茄子	茄子	植物
4055	明治34年	夏の部	振袖の露を厭ひぬ釣忍	釣忍	人事
4056	明治34年	夏の部	夕立の小鮒や草にはね上る	夕立	天文
4057	明治34年	夏の部	元禄の古茶天明の新茶哉	雑	雑
4058	明治34年	夏の部	わびしさの鮓を探て味噌を得つ	鮓	人事
4059	明治34年	夏の部	山百合や故郷人の草を刈る	百合	植物
4060	明治34年	夏の部	草蟬の百合に取りつく小鳴哉	百合	植物
4061	明治34年	夏の部	さぶしくもあるか月夜の百合の花	百合	植物
4062	明治34年	夏の部	百合活けて座を起去りぬ五尺程	百合	植物
4063	明治34年	夏の部	たきものゝ一間や昼寝しておはす	晝寝	人事
4064	明治34年	夏の部	滝殿を下り来る人やたきものす	滝殿	人事
4065	明治34年	夏の部	殺生の閑白殿や時鳥	時鳥	動物
4066	明治34年	夏の部	つゝじ咲く傍に草木もなかりけり	躑躅	植物
4067	明治34年	夏の部	よき水に眼あかるき若葉哉	若葉	植物
4068	明治34年	夏の部	渋茶汲む娘梅干す媼哉	梅干す	人事
4069	明治34年	夏の部	目に青葉松魚は下司の新茶哉	雑	雑
4070	明治34年	夏の部	夏霞草の戸越の湖の上	夏霞	天文
4071	明治34年	夏の部	大徳の拂子や蠅も寄りつかず	蠅	動物
4072	明治34年	夏の部	夏草の茂きが中の軒端かな	夏草	植物
4073	明治34年	夏の部	新妻の鏡臺の上や紅扇	扇	人事
4074	明治34年	夏の部	薬湯のさめてしまひぬ夏の月	夏の月	天文

夏の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
4075	明治34年	夏の部	金碧の額の古びや蓮の亭	蓮	植物
4076	明治34年	夏の部	蕪菜の花の盛を夕立かな	夕立	天文
4077	明治34年	夏の部	心中の沙汰も久しや橋納涼	納涼	人事
4078	明治34年	夏の部	川上の空に夜振のあかり哉	夜振	人事
4079	明治34年	夏の部	行き / \ て日今かくれし野末かな	日傘	人事
4080	明治34年	夏の部	戀もなき草刈共や虎が雨	虎が雨	天文
4081	明治34年	夏の部	蓴採る姿を人に見られけり	蓴菜	植物
4082	明治34年	夏の部	澤庵に訪はれし宵や鮓をおす	鮓	人事
4083	明治34年	夏の部	流去る卵のからや風涼し	涼し	時候
10579	明治34年	夏の部	目の前にまぼろし消えてはちす哉	はちす	植物
10589	明治34年	夏の部	夏野行く馬の嚏や藁草	夏野	地理
4375	明治35年	夏の部	採蓴の姿恥らふうき思	蓴菜	植物
4376	明治35年	夏の部	編笠や故人も我も恙なき	編笠	人事
4377	明治35年	夏の部	澤潟の花さき出てぬ雲の峰	雲の峰	天文
4378	明治35年	夏の部	羅に水草の花を画きけり	羅	人事
4379	明治35年	夏の部	鮎釣の巖に寄りけり百合の花	百合	植物
4380	明治35年	夏の部	蝙蝠や小庭あかるき白菖蒲	菖蒲	植物
4381	明治35年	夏の部	水とく / \ 山葵の花の幽かなり	山葵の花	植物
4382	明治35年	夏の部	満山の植立杉や夏に入る	夏	時候
4383	明治35年	夏の部	鐘が鳴る諸山諸木の若葉かな	若葉	植物
4384	明治35年	夏の部	うらみわび果は筑摩のかさね鍋	筑摩祭	人事
4385	明治35年	夏の部	綿ぬいで貧しき戀を悲みぬ	更衣	人事
4386	明治35年	夏の部	さま / \ の戀ぢや浮世ぢや鍋祭	筑摩祭	人事
4387	明治35年	夏の部	綿ぬぐや重きが上の小夜衣	更衣	人事
4388	明治35年	夏の部	鮑叔に銭拂はせて初鯉魚	初鯉	動物
4389	明治35年	夏の部	浅ましき草の茂りや神泉苑	草茂る	植物
4390	明治35年	夏の部	鶯の老をも知らず四睡かな	老鶯	動物
4391	明治35年	夏の部	灌佛の鐘は上野か初鯉魚	初鯉	動物
4392	明治35年	夏の部	飯喰うて淋しかりけり花卯木	卯の花	植物
4393	明治35年	夏の部	花桐の露にぬれたる鶉かな	桐の花	植物
4394	明治35年	夏の部	油々と草茂るなり午の雲	草茂る	植物
4395	明治35年	夏の部	鶯の老いてせはしき鳴音かな	老鶯	動物
4396	明治35年	夏の部	二の申の祭の旗や青嵐	青嵐	天文
4397	明治35年	夏の部	神前の笙箏築やくらべ馬	競馬	人事
4398	明治35年	夏の部	なよ竹の女竹を植ゑつ細流	竹植る	人事
4399	明治35年	夏の部	菖蒲蓬いづれ六日の軒の露	菖蒲	植物
4400	明治35年	夏の部	一椀の茶を喫了す晝寐起	晝寝	人事
4401	明治35年	夏の部	到来の鮓の香うれし晝寐起	晝寝	人事
4402	明治35年	夏の部	朝日子をそびらに負ふて矢数哉	矢数	人事
4403	明治35年	夏の部	高山の頂に人や夏帽子	夏帽子	人事
4404	明治35年	夏の部	萍やたぐりよせたる花一つ	萍	植物
4405	明治35年	夏の部	掛香や草屋に育つ貴人の子	掛香	人事
4406	明治35年	夏の部	薬つめば薬を鹿のねぶりけり	薬日	人事
4407	明治35年	夏の部	たらちねのあやめ湯まゐるかたばかり	あやめ	植物
4408	明治35年	夏の部	鄙ぶりを人に恥ぢたる粽かな	粽	人事
4409	明治35年	夏の部	菖蒲酒はなやかに蓬酒わびたり	雑	雑
4410	明治35年	夏の部	燕子の寄りもつかざる幟かな	幟	人事
4411	明治35年	夏の部	鯨賣の山路を來る女かな	鯨	動物

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
4412	明治35年	夏の部	夕立や八尺の麻刈乱す	夕立	天文
4413	明治35年	夏の部	妹が取る小田の早苗の長短	早苗	植物
4414	明治35年	夏の部	ます鏡榭の花も咲きにけり	榭の花	植物
4415	明治35年	夏の部	鮎賣の水こぼし去る朝戸哉	鮎	動物
4416	明治35年	夏の部	宿の子の淺きなじみや苺やる	苺	植物
4417	明治35年	夏の部	瓜さがす野鍛冶が弟子や瓜の花	瓜の花	植物
4418	明治35年	夏の部	蚊帳を出て芭蕉つめたし眉の上	蚊帳	人事
4419	明治35年	夏の部	鑛を碎く響や雲の峯	雲の峰	天文
4420	明治35年	夏の部	競渡見る二喬や未だ幼き	ボート	人事
4421	明治35年	夏の部	紫陽花の蛇とる児や寺の間	紫陽花	植物
4422	明治35年	夏の部	香薷ねる水したたらず掌	香薷散	人事
4423	明治35年	夏の部	鹿の子の露涼しげにねぶりけり	鹿の子	動物
4424	明治35年	夏の部	夏川や喚べば答へて徒渉り	夏の川	地理
4425	明治35年	夏の部	編笠や人に知られし面魂	編笠	人事
4426	明治35年	夏の部	編笠や風吹來る伊豆の海	編笠	人事
4427	明治35年	夏の部	貯の煮酒の壺や詩を作る	煮酒	人事
4428	明治35年	夏の部	五更の灯煮酒の冷えを照しけり	煮酒	人事
4429	明治35年	夏の部	酒のまぬ杜氏や煮酒の火の加減	煮酒	人事
4430	明治35年	夏の部	封じ去る煮酒の桶や藏はやみ	煮酒	人事
4431	明治35年	夏の部	人のために酒煮るも憂し志	煮酒	人事
4433	明治35年	夏の部	大川の溢るゝ水や雲の峯	雲の峰	天文
4434	明治35年	夏の部	汎濫の水吹く風や雲の峯	雲の峰	天文
4435	明治35年	夏の部	くものみね洪水海と連りぬ	雲の峰	天文
4436	明治35年	夏の部	くものみね洪水國を貫けり	雲の峰	天文
4437	明治35年	夏の部	くものみね洪水森を洗去る	雲の峰	天文
4438	明治35年	夏の部	洪水や忽ち起るくもの峰	雲の峰	天文
4439	明治35年	夏の部	洪水をかぎる木立や雲の峰	雲の峰	天文
4440	明治35年	夏の部	眼前に水漲りぬ雲の峰	雲の峰	天文
4441	明治35年	夏の部	雲の峰くづれ洪水暮れんとす	雲の峰	天文
4442	明治35年	夏の部	くものみね水漲って音もなし	雲の峰	天文
4443	明治35年	夏の部	洪水に吾が立つ丘や雲の峯	雲の峰	天文
4444	明治35年	夏の部	洪水や葉山しげ山雲の峯	雲の峰	天文
4445	明治35年	夏の部	洪水の舟出恐ろし雲の峯	雲の峰	天文
4446	明治35年	夏の部	洪水の野にひた / \ と雲の峯	雲の峰	天文
4447	明治35年	夏の部	雲の峯出水の中の大榎	雲の峰	天文
4448	明治35年	夏の部	横サマに水押寄せぬ雲の峯	雲の峰	天文
4449	明治35年	夏の部	洪水や日たゞゆるがぬ雲の峯	雲の峰	天文
4450	明治35年	夏の部	洪水の老樹に激す雲の峯	雲の峰	天文
4451	明治35年	夏の部	洪水の渦去て雲の峯	雲の峰	天文
4452	明治35年	夏の部	雲の峰洪水の音遠きより	雲の峰	天文
4453	明治35年	夏の部	諸共に起きてふたさぬかやの穴	蚊帳	人事
4454	明治35年	夏の部	冷飯をこぼす夏書の御経かな	夏書	人事
4456	明治35年	夏の部	ひやめし喰終って冷飯腹横はる	雑	雑
4457	明治35年	夏の部	理屈云ふ兼好法師初松魚	初鯉	動物
4458	明治35年	夏の部	武者窓に雨吹きちるや桐の花	桐の花	植物
4459	明治35年	夏の部	鹿の子に馴れて遊びぬ女童	鹿の子	動物
4460	明治35年	夏の部	迷ひ行く鹿の子や神にみちびかれ	鹿の子	動物
4461	明治35年	夏の部	薬ふる夜明の水や白あやめ	あやめ	植物

夏の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
4462	明治35年	夏の部	訪ひよれば思ふ女のまゆをえる	繭	人事
4463	明治35年	夏の部	よきまゆをえりわけにけり小一合	繭	人事
4464	明治35年	夏の部	日があたる水馬の夢や菱の花	菱の花	植物
4465	明治35年	夏の部	卵の花の水にこぼれて水馬哉	水馬	動物
4466	明治35年	夏の部	うすものや雨玉階にそゝぐ夕	羅	人事
4467	明治35年	夏の部	うすものや風を怕るゝ御悩み	羅	人事
4468	明治35年	夏の部	石榴の花の盛も久しかり	石榴の花	植物
4469	明治35年	夏の部	麦刈の寺を抜けけり花ざくろ	石榴の花	植物
4470	明治35年	夏の部	皮をぬく竹四五本の月夜哉	竹の皮脱ぐ	植物
4471	明治35年	夏の部	清流や竹の皮ちる竹の風	竹の皮脱ぐ	植物
4472	明治35年	夏の部	追剥に逢はて峠の明易き	短夜	時候
4473	明治35年	夏の部	夕立や熊坂の胸毛ぬるゝ程	夕立	天文
4474	明治35年	夏の部	涼しさや水迸る大理石	涼し	時候
4475	明治35年	夏の部	湯あみして薄荷畑の風涼し	涼し	時候
4476	明治35年	夏の部	人の國は又も直訴や田植唄	田植	人事
4477	明治35年	夏の部	雨乞や又現はれし白き虹	雨乞	人事
4478	明治35年	夏の部	鍋さげて山田通ひや五月人	五月	時候
4479	明治35年	夏の部	くす玉の紫がちや右左	薬玉	人事
4480	明治35年	夏の部	人訪へば人の女房の昼ね哉	晝寝	人事
4481	明治35年	夏の部	一家皆昼寐のさまや明けはなし	晝寝	人事
4482	明治35年	夏の部	人の来て昼寐の母御目さめたり	晝寝	人事
4483	明治35年	夏の部	紫陽花に昼寐の臉開きけり	晝寝	人事
4484	明治35年	夏の部	山蟻を恐るゝ樹下の昼ね哉	晝寝	人事
4485	明治35年	夏の部	一人さめて蚊帳をつくらふ昼寐哉	晝寝	人事
4486	明治35年	夏の部	目さむれば虹が出て居る昼寐哉	晝寝	人事
4487	明治35年	夏の部	花活の花が開きぬ昼寐覚	晝寝	人事
4488	明治35年	夏の部	白薔薇を活けて和尚の昼寐哉	晝寝	人事
4489	明治35年	夏の部	鮎すしの消息もあり昼寐起	晝寝	人事
4490	明治35年	夏の部	前裁の日かげとなりぬ昼寐起	晝寝	人事
4491	明治35年	夏の部	庭樹打って人の昼寐を驚かす	晝寝	人事
4492	明治35年	夏の部	盗人の晝寐をしばる社かな	晝寝	人事
4493	明治35年	夏の部	雷や胡瓜畑の花ざかり	瓜の花	植物
4494	明治35年	夏の部	わぶらくは皆になりたる鮎の桶	鮎	人事
4495	明治35年	夏の部	蘭湯や一家兄弟十二人	蘭湯	人事
4496	明治35年	夏の部	子子のいやじゃ / \ と申しけり	子子	動物
4497	明治35年	夏の部	打水の盥の鯉がはねる哉	打水	人事
4498	明治35年	夏の部	卵の花に残る山吹きびしくも	卵の花	植物
4499	明治35年	夏の部	虫干の衣にかくるゝ童かな	蟲干	人事
4501	明治35年	夏の部	水飯に悲しき心起りけり	水飯	人事
4502	明治35年	夏の部	川上の朗詠美なる夜振かな	夜振	人事
4503	明治35年	夏の部	夏菊の黄もめづらしき朝餉哉	夏菊	植物
4504	明治35年	夏の部	蟻螂の世に顔よくも生れけり	蟻螂生る	動物
4505	明治35年	夏の部	屋根の上に土用の花やこぼれ草	土用	時候
4506	明治35年	夏の部	水草に流れ来て去る蟬の殻	空蟬	動物
4507	明治35年	夏の部	石山の石の上飛ぶ螢かな	螢	動物
4508	明治35年	夏の部	水に流す夏書の反古や朝あらし	夏書	人事
4509	明治35年	夏の部	百合切て滝に抛つ修法かな	百合	植物
4510	明治35年	夏の部	石に腰百合の写生や木下闇	百合	植物

夏の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
4511	明治35年	夏の部	心よき浅黄のうらや更衣	更衣	人事
4512	明治35年	夏の部	氷むろ山櫻の頃の行幸哉	氷室	人事
4513	明治35年	夏の部	川床にしるき丈山の拂子哉	川床	人事
4514	明治35年	夏の部	夏瘦の手洗ひにゆく泉哉	夏瘦	人事
4515	明治35年	夏の部	佛拝む稚き君やくのえ香	薫衣香	人事
4516	明治35年	夏の部	掛香や領布ふりなから近よりぬ	掛香	人事
4518	明治35年	夏の部	夏羽をり長し短し人の丈け	夏羽織	人事
4519	明治35年	夏の部	詩箋飛んで水に入りけりたかむしろ	簞	人事
4520	明治35年	夏の部	一莖の蓮潔き夏書哉	夏書	人事
4521	明治35年	夏の部	境内の狸の番や栗の花	栗の花	植物
4522	明治35年	夏の部	梅干も日蔭となりぬ店の間	梅干す	人事
4523	明治35年	夏の部	明易き草の嵐や蛇の衣	蛇衣を脱ぐ	動物
4524	明治35年	夏の部	満願の暁出や風かほる	薫風	天文
4525	明治35年	夏の部	五月雨の背戸にすてけり魚のわた	五月雨	天文
4526	明治35年	夏の部	河骨や雲を出でたる日の光	河骨	植物
4527	明治35年	夏の部	百合高く鹿の子小さく画きけり	雑	雑
4528	明治35年	夏の部	銀の箸吹く風や沖膾	沖膾	人事
4529	明治35年	夏の部	乳母が宿の此頃の花や蜀葵	立葵	植物
4530	明治35年	夏の部	洗たくや盥にうつる雲の峰	雲の峰	天文
4531	明治35年	夏の部	心太つくがわざなる漢哉	心太	人事
4532	明治35年	夏の部	潔くすゝり了りぬ心太	心太	人事
4533	明治35年	夏の部	心太人各々が銭勘定	心太	人事
4534	明治35年	夏の部	心太ありやと如意を揮ひけり	心太	人事
4535	明治35年	夏の部	心太五言一句を口吟む	心太	人事
4536	明治35年	夏の部	昼兒の虹見る頃をしばみけり	晝顔	植物
4537	明治35年	夏の部	見てすぎぬ思ふ女のまゆをえる	繭	人事
4538	明治35年	夏の部	麻畑にあかき旭ざしや山かつら	麻	植物
4539	明治35年	夏の部	水馬名のなき虫も遊ぎけり	水馬	動物
4540	明治35年	夏の部	訃をきいて驚き起つやほとゝぎす	時鳥	動物
4541	明治35年	夏の部	うすものゝ兼好にくき男かな	羅	人事
4542	明治35年	夏の部	水飯に風や四面の蓮より	水飯	人事
4543	明治35年	夏の部	着かへたる白帷子やよだち過	帷子	人事
4544	明治35年	夏の部	蝙蝠や母子すまひの念佛鉦	蝙蝠	動物
4545	明治35年	夏の部	行水や虹消え残る東山	行水	人事
4546	明治35年	夏の部	夏川をわたり少らく跣足哉	夏の川	地理
4547	明治35年	夏の部	夏川のまた吹く風や顧みる	夏の川	地理
4548	明治35年	夏の部	夏川や草刈共の夕渉	夏の川	地理
4549	明治35年	夏の部	夏川や木立もる日のさざら波	夏の川	地理
4550	明治35年	夏の部	夏川の已にあけたるうがひ哉	夏の川	地理
4551	明治35年	夏の部	夏川に下り立つ人や朝月夜	夏の川	地理
4552	明治35年	夏の部	夏川や夜ふけて渉る水の音	夏の川	地理
4553	明治35年	夏の部	夏川の月見る家や明放し	夏の川	地理
4554	明治35年	夏の部	夏川の月待つさまや捲すだれ	夏の川	地理
4555	明治35年	夏の部	編笠の人に訪はれし昼寐哉	編笠	人事
4556	明治35年	夏の部	編笠やいつもの髭を剃落し	編笠	人事
4557	明治35年	夏の部	編笠を脱いで心太に對しけり	心太	人事
4558	明治35年	夏の部	編笠に湖吹く風の真向哉	編笠	人事
4559	明治35年	夏の部	其中の女と見えつ小編笠	編笠	人事

夏の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
4560	明治35年	夏の部	編笠に故人瘦せたる涙かな	編笠	人事
4561	明治35年	夏の部	編笠をゆるがし笑ふ別哉	編笠	人事
4562	明治35年	夏の部	山寺の餘花紅に目さましき	餘花	植物
4563	明治35年	夏の部	一鳥啼かず餘花更に幽かなる	餘花	植物
4564	明治35年	夏の部	駒牽や鞍に青葉の日の光	青葉	植物
4565	明治35年	夏の部	駒曳や鬣を吹く青あらし	青嵐	天文
4859	明治36年	夏の部	草合草に佳き名をつけにけり	草合	人事
4860	明治36年	夏の部	御子羅子の田植めでたし神の國	田植	人事
4861	明治36年	夏の部	月下ばら剪て香に驚きぬ	薔薇	植物
4863	明治36年	夏の部	初袷眼は黄卷にかゞやきぬ(青々)	袷	人事
4864	明治36年	夏の部	初袷酒のまぬ人細長し(四方太)	袷	人事
4865	明治36年	夏の部	初袷それにつけても烟草哉(紅緑)	袷	人事
4866	明治36年	夏の部	初袷うれしよき酒三オンス(鳴雪)	袷	人事
4867	明治36年	夏の部	初袷今の世の句をさげしめぬ(碧梧桐)	袷	人事
4868	明治36年	夏の部	初袷今はた酔ひて謠ひけり(虚子)	袷	人事
4869	明治36年	夏の部	雷や赫と日のさす桐の花	桐の花	植物
4870	明治36年	夏の部	夏座敷暮れて吹入る艸木の香	夏座敷	人事
4871	明治36年	夏の部	経よめば夏断の腹の鳴ることよ	夏断	人事
4872	明治36年	夏の部	夕立や雹もまじりて紅藍花畑	夕立	天文
4873	明治36年	夏の部	御神庫に銀杏の若葉輝けり	若葉	植物
4874	明治36年	夏の部	薬日の鼎の塵を掃ひけり	薬日	人事
4875	明治36年	夏の部	かりそめにかみ試みつ薬摘	薬日	人事
4876	明治36年	夏の部	薬ふる我庭黄ばむ梅一樹	薬ふる	天文
4877	明治36年	夏の部	薬狩いやしからざる主従かな	薬日	人事
4878	明治36年	夏の部	薬草を採り薬草を干す一日哉	薬日	人事
4879	明治36年	夏の部	競かりこの頃道士庵にあり	競馬	人事
4881	明治36年	夏の部	耳あれば天地五月の雲の音	五月	時候
4883	明治36年	夏の部	この頃の日日本の國あけやすき	短夜	時候
4884	明治36年	夏の部	五月雨やいって追手が呼ばふ声	五月雨	天文
4885	明治36年	夏の部	眼の前の紅花盛りなり夏霞	紅花	植物
4886	明治36年	夏の部	簞童子も雲の奇を了す	簞	人事
4887	明治36年	夏の部	等閑に茶の湯もすなり簞	簞	人事
4888	明治36年	夏の部	陶に水飯空し簞	簞	人事
4889	明治36年	夏の部	婆子饒舌梅干の壺仆しけり	梅干す	人事
4890	明治36年	夏の部	葛水の其交や君子也	葛水	人事
4891	明治36年	夏の部	夏神樂水浴びて来る神馬哉	夏神樂	人事
4892	明治36年	夏の部	露涼し朴の林の朝日影	夏の露	天文
4893	明治36年	夏の部	露涼し軒端の草に茶の煙	夏の露	天文
4894	明治36年	夏の部	露涼し林檎熟して紅に	夏の露	天文
4895	明治36年	夏の部	露すゞし保津の朝川くだり舟	夏の露	天文
4896	明治36年	夏の部	露涼し木末に消ゆるはゞき星	夏の露	天文
4897	明治36年	夏の部	青芒山家の鍋に洗飯	青芒	植物
4898	明治36年	夏の部	短夜の人や丘見の兒白き	短夜	時候
4899	明治36年	夏の部	短夜や人をあやしむとめ木の香	短夜	時候
4900	明治36年	夏の部	短夜の曉一しきりちり松葉	短夜	時候
4901	明治36年	夏の部	短夜のありのすさびも掃かれけり	短夜	時候
4902	明治36年	夏の部	雨五月いつこ鶯啼にけり	五月雨	天文
4903	明治36年	夏の部	五月雨や家をめぐりて当帰畑	五月雨	天文

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
4904	明治36年	夏の部	紫陽花の妬げに見えてさみだるゝ	五月雨	天文
4905	明治36年	夏の部	五月雨の棗色づく日の光り	五月雨	天文
4906	明治36年	夏の部	柚の花は香にこぼれけり棕櫚の花	棕櫚の花	植物
4907	明治36年	夏の部	棕櫚の花風雨頻りに至る夕	棕櫚の花	植物
4908	明治36年	夏の部	野雀や棕櫚の荅を弄ぶ	棕櫚の花	植物
4909	明治36年	夏の部	棕櫚の花庭木の中にかそへけり	棕櫚の花	植物
4910	明治36年	夏の部	花棕櫚の畑は四月の天気哉	棕櫚の花	植物
4911	明治36年	夏の部	花棕櫚や畑の隅なる青山椒	棕櫚の花	植物
4912	明治36年	夏の部	絵日傘にかくれて兒のありきけり	日傘	人事
4913	明治36年	夏の部	日傘して舟に河水を掬ひけり	日傘	人事
4914	明治36年	夏の部	藍刈と物打語る日傘人	日傘	人事
4915	明治36年	夏の部	日傘たゝみ林檎の下に立寄りぬ	日傘	人事
4916	明治36年	夏の部	短夜の聞知らぬ鳥山の宿	短夜	時候
4917	明治36年	夏の部	短夜の兒も洗はず鴉かな	短夜	時候
4918	明治36年	夏の部	島原を畑に見てゆく日傘哉	日傘	人事
4919	明治36年	夏の部	青梅を人の日傘につふて哉	雑	雑
4920	明治36年	夏の部	短夜を鳴残る蛙一ツ哉	短夜	時候
4921	明治36年	夏の部	五月雨や杉伐仆す橋わたし	五月雨	天文
4922	明治36年	夏の部	獨活畑のうど採尽す棕櫚の花	棕櫚の花	植物
4923	明治36年	夏の部	机に灯古人蚊をやく辞あり	蚊	動物
4924	明治36年	夏の部	棕櫚の花竹原出る小嘯囉	棕櫚の花	植物
4925	明治36年	夏の部	五月雨道にふまるゝあやめ草	五月雨	天文
4926	明治36年	夏の部	五月雨や塩くさき飽く蕨汁	五月雨	天文
4927	明治36年	夏の部	短夜の餘花にあけたり山かつら	短夜	時候
4928	明治36年	夏の部	短夜の牡丹を惜む主かな	短夜	時候
4929	明治36年	夏の部	蚊を打て再び呪文高らかに	蚊	動物
4930	明治36年	夏の部	目をとどて蚊の鳴く方を定めけり	蚊	動物
4931	明治36年	夏の部	冷飯に蚊も秋近くなりけり	蚊	動物
4932	明治36年	夏の部	暁の蚊の乾をさして飛去りぬ	蚊	動物
4933	明治36年	夏の部	戀に蚊に物の哀を覚えけり	蚊	動物
4934	明治36年	夏の部	昼の蚊やみすより人を覗く程に	蚊	動物
4935	明治36年	夏の部	大佛や日傘かたげて人のゆく	日傘	人事
4936	明治36年	夏の部	かちわたり河原をありく日傘哉	日傘	人事
4937	明治36年	夏の部	顔や日傘の中の日の匂ひ	日傘	人事
4938	明治36年	夏の部	日傘たゝめば木間もる日や顔に照る	日傘	人事
4939	明治36年	夏の部	花棕櫚やかたち醜き寺男	棕櫚の花	植物
4940	明治36年	夏の部	花棕櫚や寺僧頑に叱る声	棕櫚の花	植物
4941	明治36年	夏の部	さみだるゝ牧場に馬もなかりけり	五月雨	天文
4942	明治36年	夏の部	蚊をやくや夜の活花蚊帳越に	蚊	動物
4943	明治36年	夏の部	うはなりのひた憎む蚊や古行灯	蚊	動物
4944	明治36年	夏の部	蠟燭や法幢に蚊も寄つかず	蚊	動物
4945	明治36年	夏の部	五月雨やよしある里の花かつみ	五月雨	天文
4946	明治36年	夏の部	五月雨の雲や柴胡のむら茂り	五月雨	天文
4948	明治36年	夏の部	ゆけ、われ蛇斬ると夢みたり	蛇	動物
4949	明治36年	夏の部	河骨に蜻蛉始めて飛ぶ日哉	蜻蛉	動物
4950	明治36年	夏の部	水馬頻りに飛ぶも恋の事	水馬	動物
4951	明治36年	夏の部	薫風や故郷の路の花茨	薫風	天文
4952	明治36年	夏の部	涼しさにラムネの玉を鳴らしけり	涼し	時候

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
4953	明治36年	夏の部	ふじ詣裾野の小家立出でぬ	富士詣	人事
4954	明治36年	夏の部	鄙の宿燈心草も花咲きぬ	燈心草の花	植物
4955	明治36年	夏の部	黄梅の雨や寺僧の詩三昧	黄梅	植物
4956	明治36年	夏の部	風涼し龍をはしらす墨の痕	涼し	時候
4957	明治36年	夏の部	若竹に小督の墓を弔へり	若竹	植物
4958	明治36年	夏の部	燕子花活けあまりたる廣葉哉	杜若	植物
4959	明治36年	夏の部	葛水や老來の齒も爽かに	葛水	人事
4960	明治36年	夏の部	うの花の主と申せ蝸牛	蝸牛	動物
4961	明治36年	夏の部	あちさみや小家にしるき異種	紫陽花	植物
4962	明治36年	夏の部	雲の峰日たゝ西吹く形哉	雲の峰	天文
4963	明治36年	夏の部	あちさみに或はかゝるゝ寺子哉	紫陽花	植物
4964	明治36年	夏の部	葛水や馬も涼しき木下蔭	葛水	人事
4965	明治36年	夏の部	絵扇をすさびにすなる力士哉	絵扇	人事
4966	明治36年	夏の部	角ふるや物きゝわけてかたつむり	蝸牛	動物
4967	明治36年	夏の部	大衆の打眠うかがふ蝸牛	蝸牛	動物
4968	明治36年	夏の部	紫陽花の色に迷へり蝸牛	蝸牛	動物
4969	明治36年	夏の部	伸上りてゝむし思ふ所あり	蝸牛	動物
4970	明治36年	夏の部	雲の峰六尺の百合花開く	雲の峰	天文
4971	明治36年	夏の部	王城の鬼門に当り雲の峰	雲の峰	天文
4972	明治36年	夏の部	ちるけしの葉末や雲峰低し	雲の峰	天文
4973	明治36年	夏の部	君が手の扇の影や草合	扇	人事
4974	明治36年	夏の部	扇つかひ顔に紅うつりけり	扇	人事
4975	明治36年	夏の部	あちさみのいやしき様や夜店の灯	紫陽花	植物
4976	明治36年	夏の部	紫陽花に蛇打逃がす茂り哉	紫陽花	植物
4977	明治36年	夏の部	紫陽花に日うとき極の廣葉哉	紫陽花	植物
4978	明治36年	夏の部	葛のんで土器に水そゝきけり	葛水	人事
4979	明治36年	夏の部	草清水人こほし去る葛粉哉	清水	地理
4980	明治36年	夏の部	葛水や白衣は人の潔き	葛水	人事
4981	明治36年	夏の部	市中の一本杉や雲の峯	雲の峰	天文
4982	明治36年	夏の部	床の間のあやめの丈や扇掛	あやめ	植物
4983	明治36年	夏の部	祭見る村のしこめも扇哉	扇	人事
4984	明治36年	夏の部	あけやすき我が宿水の音ばかり	短夜	時候
4985	明治36年	夏の部	栗の花颯然として雨到る	栗の花	植物
4986	明治36年	夏の部	夏の神夜は即ち白衣哉	夏	時候
4987	明治36年	夏の部	夏ざしき夕日が少しあたりけり	夏座敷	人事
4988	明治36年	夏の部	夏羽をり飄々として庭ありき	夏羽織	人事
4989	明治36年	夏の部	羽抜鳥蓐とる子の鼻の先	羽抜鳥	動物
4990	明治36年	夏の部	朝兒の苗に斑入をえらびけり	朝顔の苗	植物
4991	明治36年	夏の部	舟遊び舳に當り三日の月	舟遊	人事
4992	明治36年	夏の部	舟遊水の流に茶の烟	舟遊	人事
4993	明治36年	夏の部	舟遊眉をあぐれば嵐山	舟遊	人事
4994	明治36年	夏の部	舟遊舟ばたに立つ美少年	舟遊	人事
4995	明治36年	夏の部	舟遊去來は酒に遠さかり	舟遊	人事
4996	明治36年	夏の部	かへり見る活花の間や簞	簞	人事
4997	明治36年	夏の部	簞少し日当る朝の程	簞	人事
4998	明治36年	夏の部	簞独坐に近き月見艸	簞	人事
4999	明治36年	夏の部	簞足ふみ伸ばす雲の上	簞	人事
5000	明治36年	夏の部	簞星を懐ろなる思	簞	人事

夏の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
5001	明治36年	夏の部	簞花が目につく女童	簞	人事
5002	明治36年	夏の部	蚊帳越や夜の活花白き花	蚊帳	人事
5003	明治36年	夏の部	蚊帳去るや枕に近く青表紙	蚊帳	人事
5004	明治36年	夏の部	蚊帳の中故人は旅につかれけり	蚊帳	人事
5005	明治36年	夏の部	蚊帳を出て夏朝兒に見入りけり	蚊帳	人事
5006	明治36年	夏の部	稲妻に玉巻芭蕉秀でたり	芭蕉玉巻	植物
5007	明治36年	夏の部	風鈴に新体の詩を詠じけり	風鈴	人事
5008	明治36年	夏の部	昼兒や道に死居る蟬暑し	晝顔	植物
5009	明治36年	夏の部	甘酒に客昼の蚊を憎みけり	蚊	動物
5010	明治36年	夏の部	目すゞしく眉秀でたり夏書人	夏書	人事
5011	明治36年	夏の部	ラムネのむやいさゝかの酒の酔心地	ラムネ	人事
5012	明治36年	夏の部	大原女の面もふらず草いきれ	草いきれ	植物
5013	明治36年	夏の部	法の風蓮の花の開く音	蓮	植物
5014	明治36年	夏の部	蓴つみ蓮の浮葉もたぐりけり	蓴菜	植物
5015	明治36年	夏の部	盆栽の蓮も咲いて水乏し	蓮	植物
5016	明治36年	夏の部	蓮の花くわゐの花も咲きにけり	蓮	植物
5017	明治36年	夏の部	蓮やせて浮草茂り咲にけり	蓮	植物
5018	明治36年	夏の部	蓮伐るや雨に驚く僧のさま	蓮	植物
5019	明治36年	夏の部	蓮さげて本堂をゆく尊さよ	蓮	植物
5020	明治36年	夏の部	白蓮の且紅蓮の夕かな	蓮	植物
5021	明治36年	夏の部	河骨の群がり咲くや蓮の花	蓮	植物
5022	明治36年	夏の部	蓮見んと行くや蓮の朝月夜	蓮	植物
5023	明治36年	夏の部	銀燭や坐に水飯のうつはもの	水飯	人事
5024	明治36年	夏の部	水飯や皆銀のうつはもの	水飯	人事
5025	明治36年	夏の部	水飯や精進の日の昼灯	水飯	人事
5026	明治36年	夏の部	柚人の洗ひこぼしぬ洗飯	水飯	人事
5027	明治36年	夏の部	水飯や詩は性靈を貴べり	水飯	人事
5028	明治36年	夏の部	水飯や簀戸に遮る雨しぶき	水飯	人事
5029	明治36年	夏の部	水めしや紫陽花の色暮近き	水飯	人事
5030	明治36年	夏の部	水飯に昼の蚊一ツ見たりけり	水飯	人事
5031	明治36年	夏の部	水飯や句は天明を喜べり	水飯	人事
5032	明治36年	夏の部	水飯に奈良漬の香を憎みけり	水飯	人事
10581	明治36年	夏の部	蝙蝠や過て怪しきオロシヤ人	蝙蝠	動物
10595	明治36年	夏の部	蠓螂の生るゝ見ても佛かな	蠓螂	動物
10609	明治36年	夏の部	眠る山夫の洞庭の眺めかな	眺め	人事
5330	明治37年	夏の部	火事跡や風雨乱るゝ桐の花	桐の花	植物
5331	明治37年	夏の部	輪奐の美にかゞやけり桐の花	桐の花	植物
5332	明治37年	夏の部	鬱として野に垂る雲や桐の花	桐の花	植物
5333	明治37年	夏の部	桐の花落ちて微風を見たりけり	桐の花	植物
5334	明治37年	夏の部	花桐の露や残礎を乱れうつ	桐の花	植物
5335	明治37年	夏の部	歌人や羽抜の鳥に寄する戀	羽抜鳥	動物
5336	明治37年	夏の部	夏帽や皆林泉の客ばかり	夏帽子	人事
5337	明治37年	夏の部	夏座敷小寒きばかり雨中の景	夏座敷	人事
5338	明治37年	夏の部	梅雨晴に長袖の人や花棗	棗の花	植物
5339	明治37年	夏の部	避暑の客名を題壁に知られけり	避暑	人事
5340	明治37年	夏の部	午睡して居れば官人狂駕かな	晝寝	人事
5341	明治37年	夏の部	竹婦人東坡は室に居残りぬ	竹夫人	人事
5342	明治37年	夏の部	夏菊や婆子に詩を問ふ白樂天	夏菊	植物

夏の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
5343	明治37年	夏の部	水飯を喰こぼしけり長廣舌	水飯	人事
5344	明治37年	夏の部	貴人の前扇の風のあまり哉	扇	人事
5345	明治37年	夏の部	蠅を打つ臥龍先生二十八	蠅	動物
5346	明治37年	夏の部	はひを打つ悪道心が眼かな	蠅	動物
5347	明治37年	夏の部	夕立や物に恐るゝ蠅一つ	蠅	動物
5348	明治37年	夏の部	蠅を避けて庭の藁に遊びけり	蠅	動物
5350	明治37年	夏の部	蠅叩から / \ と笑ひ給ふらん	蠅	動物
5351	明治37年	夏の部	枕頭の山水蚊帳に賓主かな	蚊帳	人事
5352	明治37年	夏の部	よき蚊帳も釣て松風蘿月哉	蚊帳	人事
5353	明治37年	夏の部	偷見る蚊帳にうまゐの兒白し	蚊帳	人事
5354	明治37年	夏の部	石山の旅泊や夏の夕ありき	夏の夕	時候
5355	明治37年	夏の部	夏の夕雨に還御の神輿かな	夏の夕	時候
5356	明治37年	夏の部	百日紅鶏の疫のはやる里	百日紅	植物
5357	明治37年	夏の部	秋近き宵ありきすや陰陽師	秋近し	時候
5358	明治37年	夏の部	冷汁に廬山の雨を偲びけり	冷汁	人事
5359	明治37年	夏の部	草取や瘦田と見ゆる稲の丈	草取り	人事
5361	明治37年	夏の部	軍中の節度涼しき事ばかり	涼し	時候
5362	明治37年	夏の部	山の幸兄は照射に出てゝ行く	照射	人事
5363	明治37年	夏の部	雷落ちし官山の杉伐らせけり	雷	天文
5364	明治37年	夏の部	苔の花佛足石を冒しけり	苔の花	植物
5365	明治37年	夏の部	支那の人簞食の禮や夏柳	夏柳	植物
5366	明治37年	夏の部	夏書の間只山僧の入るを許す	夏書	人事
5367	明治37年	夏の部	將軍の磊落として一夜酒	甘酒	人事
5368	明治37年	夏の部	不二小屋の曉深き鑽火かな	富士詣	人事
5369	明治37年	夏の部	水辺やおどろ / \ と不二行人	富士垢離	人事
5370	明治37年	夏の部	富士垢離や赤星の影清らかに	富士垢離	人事
5371	明治37年	夏の部	朔日の行事かしこし富士の坊	富士詣	人事
5372	明治37年	夏の部	語りつぎ云ひつぎ富士の道者哉	富士詣	人事
5373	明治37年	夏の部	高山を前に控へて青すだれ	青簾	人事
5374	明治37年	夏の部	小説の女に似たり青すだれ	青簾	人事
5375	明治37年	夏の部	青すだれ酒に琥珀の光あり	青簾	人事
5376	明治37年	夏の部	青簾古器を並べて樂めり	青簾	人事
5377	明治37年	夏の部	青すだれ衣桁の衣のあからさま	青簾	人事
5378	明治37年	夏の部	大勢に膾料理や青すだれ	青簾	人事
5379	明治37年	夏の部	青すだれ清女が老を覗きけり	青簾	人事
5380	明治37年	夏の部	青すだれ寂寞として古佛像	青簾	人事
5381	明治37年	夏の部	青すだれ老僧まかり出にけり	青簾	人事
5382	明治37年	夏の部	青簾松の嵐の寒き程	青簾	人事
5383	明治37年	夏の部	葉桜やよき水を射る日の光	葉櫻	植物
5384	明治37年	夏の部	一陣の風千木の幟かな	幟	人事
5385	明治37年	夏の部	草の上に招魂壇や羽蟻飛ぶ	羽蟻	動物
5386	明治37年	夏の部	衣更南枝に巢ふ鳥悲し	更衣	人事
5387	明治37年	夏の部	浮巢すゞし真菰の中の朝月夜	真菰	植物
5388	明治37年	夏の部	うはゝみの鱗を見たる照射哉	蛇	動物
5390	明治37年	夏の部	はかなさは青梅落つと見たりけり	梅の實	植物
5391	明治37年	夏の部	僧よりも高き芭蕉の巻葉哉	芭蕉玉巻	植物
5392	明治37年	夏の部	衣更皆うつくしき兒ばかり	更衣	人事
5393	明治37年	夏の部	うつくしき兒そろへたる袷かな	袷	人事

夏の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
5394	明治37年	夏の部	月の暈牡丹くづるゝ夜なりけり	牡丹	植物
5395	明治37年	夏の部	夏やすみ妹としたしむ林檎哉	夏休み	人事
5396	明治37年	夏の部	雲割れて河骨の黄にさす日かな	河骨	植物
5397	明治37年	夏の部	さらし井の不浄を神に恐れけり	井戸替え	人事
5398	明治37年	夏の部	蘭湯の浴終へて君王に侍す	蘭湯	人事
5399	明治37年	夏の部	夏の夕とぎすましたる翌日の鎌	夏の夕	時候
5400	明治37年	夏の部	夏の夕清女が老を過ぎりけり	夏の夕	時候
5401	明治37年	夏の部	夏の夕虹あか / \ と山にあり	夏の夕	時候
5402	明治37年	夏の部	草の香に折ふし咽ぶ鹿の子哉	鹿の子	動物
5403	明治37年	夏の部	沢蘭に下りて遊べる鹿の子哉	鹿の子	動物
5404	明治37年	夏の部	梅雨晴の芝に鹿の子の蹄かな	鹿の子	動物
5405	明治37年	夏の部	社地ひろし鹿の子に馴れて飛燕	鹿の子	動物
5406	明治37年	夏の部	神木の露に驚く鹿の子哉	鹿の子	動物
5407	明治37年	夏の部	蚊帳して帝玉山顔れけり	蚊帳	人事
5408	明治37年	夏の部	兄弟が寝静まりたる蚊帳哉	蚊帳	人事
5409	明治37年	夏の部	竹の子の皮脱く頃を赦免かな	竹の皮脱ぐ	植物
5410	明治37年	夏の部	帽を振る登山の連や青すゝき	青芒	植物
5411	明治37年	夏の部	夏瘦の猶手に積かず青表紙	夏瘦	人事
5412	明治37年	夏の部	よく育つ南瓜の花も大也	南瓜の花	植物
5413	明治37年	夏の部	行先に誰かは知らずともしかな	照射	人事
5414	明治37年	夏の部	維レ子子乾坤 / \ とふる	子子	動物
5415	明治37年	夏の部	朝々や青田に夏の日を拜す	青田	地理
5416	明治37年	夏の部	山の裾頓に開けて青田哉	青田	地理
5417	明治37年	夏の部	街道の埃かゝらぬ青田かな	青田	地理
5418	明治37年	夏の部	松明照す道の左右の青田哉	青田	地理
5419	明治37年	夏の部	雨上り水漫々と青田哉	青田	地理
5420	明治37年	夏の部	鍋祭筑摩の荘の美婦一人	筑摩祭	人事
5421	明治37年	夏の部	ねんごろの男一人や鍋祭	筑摩祭	人事
5422	明治37年	夏の部	卯の花や艶なる人の筑摩鍋	筑摩祭	人事
5423	明治37年	夏の部	催馬樂を謡ふ筑摩の祭人	筑摩祭	人事
5424	明治37年	夏の部	やごとなき神業にして筑摩鍋	筑摩祭	人事
5425	明治37年	夏の部	蛸たれて百合の花ほのかに白し	百合	植物
5426	明治37年	夏の部	百合さげて見知らぬ人の滝見哉	百合	植物
5427	明治37年	夏の部	等閑に百合も挿したるかほりか南	百合	植物
5428	明治37年	夏の部	百合活けて坐を立去りし美人哉	百合	植物
5429	明治37年	夏の部	百合の花美人の顔に映じけり	百合	植物
5430	明治37年	夏の部	水代へて残少なや冷瓜	冷瓜	人事
5431	明治37年	夏の部	蛛の囿のうたて覚ゆる御墓哉	蜘蛛	動物
5656	明治38年	夏の部	初茄子や世人は知らず俳体歌	茄子	植物
5657	明治38年	夏の部	妹が子は夏蚕の桑に納涼みけり	納涼	人事
5658	明治38年	夏の部	騎射の日の晨晴れたる翠微哉	騎射	人事
5659	明治38年	夏の部	弱冠にして出家す蓮の浮葉哉	蓮の浮葉	植物
5660	明治38年	夏の部	卯の花の家なる美婦を盗みけり	卯の花	植物
5661	明治38年	夏の部	夏浅き萌黄の山や湖の上	夏浅し	時候
5662	明治38年	夏の部	慵しや秋に近づく氷室守	氷室	人事
5663	明治38年	夏の部	盗人の跡に柘榴の落花哉	石榴の花	植物
5664	明治38年	夏の部	腹かけの紺の匂や心太	心太	人事
5665	明治38年	夏の部	箏に髀肉見せけり蝸牛	蝸牛	動物

夏の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
5666	明治38年	夏の部	家に居て竹をうゑけり太史公	竹植る	人事
5667	明治38年	夏の部	竹うゑて猶紫陽花を存しけり	竹植る	人事
5668	明治38年	夏の部	絃誦の声を後ろや竹植うる	竹植る	人事
5669	明治38年	夏の部	蘇子が子ら退いて賦す種竹の詩	竹植る	人事
5670	明治38年	夏の部	竹うゑて二日三日や月円か	竹植る	人事
5671	明治38年	夏の部	虎溪よりかへす獨や木下閣	木下閣	植物
5672	明治38年	夏の部	挺ンでし朴の葉音や木下閣	木下閣	植物
5673	明治38年	夏の部	木下閣皆黄檗の法師原	木下閣	植物
5674	明治38年	夏の部	下閣や木を白うして文字を書く	木下閣	植物
5675	明治38年	夏の部	下閣や幻住菴へ二三人	木下閣	植物
5676	明治38年	夏の部	夏の月槐に深き住居かな	夏の月	天文
5677	明治38年	夏の部	雨ほしき暮となりけり菰の花	菰の花	植物
5678	明治38年	夏の部	游泳の戻りを咲きぬ月見草	月見草	植物
5679	明治38年	夏の部	朝月に浮巢の雛の眼あけり	浮巢	動物
5680	明治38年	夏の部	萬骨の枯れて蟻螂生れけり	蟻螂生る	動物
5681	明治38年	夏の部	潮浴びて新月かゝる頃しもや	海水浴	人事
5682	明治38年	夏の部	衣ぬいで蛇且つ所得顔かな	蛇衣を脱ぐ	動物
5683	明治38年	夏の部	水吹けば團扇もぬれつ蚊やり草	蚊遣	人事
5684	明治38年	夏の部	朝草を荷ひ渉るや夏の川	夏の川	地理
5685	明治38年	夏の部	流るゝに任す扇や河納涼	納涼	人事
5686	明治38年	夏の部	箒木の宿とこそ聞け月見草	月見草	植物
5687	明治38年	夏の部	夏衣念佛心起りけり	夏衣	人事
5688	明治38年	夏の部	蠅打て又や草廬を立去りぬ	蠅	動物
5689	明治38年	夏の部	霍乱の人に修法や泉殿	霍乱	人事
5690	明治38年	夏の部	夏瘦の朝暮に花を活けにけり	夏瘦	人事
5691	明治38年	夏の部	夏瘦の夜を親しむ獨坐かな	夏瘦	人事
5692	明治38年	夏の部	夏やせの水澄む頃に及びけり	夏瘦	人事
5693	明治38年	夏の部	夏瘦の人や文月の句を想ふ	夏瘦	人事
5694	明治38年	夏の部	夏瘦や庭の梧桐の頼もしき	夏瘦	人事
5695	明治38年	夏の部	筍や既に春蔬の氣を厭ふ	筍	植物
5696	明治38年	夏の部	牡丹見る人驚かす毛虫かな	毛蟲	動物
5697	明治38年	夏の部	白牡丹白きを穢す毛虫哉	毛蟲	動物
5698	明治38年	夏の部	洗鯉客は当世の七才子	洗鯉	人事
5699	明治38年	夏の部	山開晴れて風鳴る頭上哉	山開	人事
5700	明治38年	夏の部	葉柳の枝伐落す浅き水	夏柳	植物
5701	明治38年	夏の部	病葉や銀杏に高き卯月の日	病葉	植物
5702	明治38年	夏の部	薰風や處せきまで金魚盤	薰風	天文
5703	明治38年	夏の部	萬木の皆日に向ふ若葉哉	若葉	植物
5704	明治38年	夏の部	五月雨に押流さるゝあやめ哉	あやめ	植物
5705	明治38年	夏の部	五月晴大河を照す斜陽かな	五月晴	天文
5706	明治38年	夏の部	木隠れに大佛近く鹿の子哉	鹿の子	動物
5707	明治38年	夏の部	折ふしの肱笠雨や田植人	田植	人事
5708	明治38年	夏の部	喝采や花踏みちらすくらべ馬	競馬	人事
5709	明治38年	夏の部	昔男女ありけり鍋祭	筑摩祭	人事
5710	明治38年	夏の部	蓴採り舟を停めて語りけり	蓴菜	植物
5711	明治38年	夏の部	貧しくて青唐辛子潔し	青唐辛子	植物
5712	明治38年	夏の部	沙弥が来て青唐辛子貰ひけり	青唐辛子	植物
5713	明治38年	夏の部	花茨五月の晴と成にけり	茨の花	植物

夏の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
5714	明治38年	夏の部	軾や轍や竹うゝる記を作りけり	竹植る	人事
5716	明治38年	夏の部	君に贈るつるぎに清水そゝぎけり	清水	地理
5717	明治38年	夏の部	川狩や夜はほのくゝと君が顔	川狩	人事
5718	明治38年	夏の部	麦秋の狼煙頻りにあがりけり	麦の秋	時候
5719	明治38年	夏の部	夕立のしぶきかしこし宮柱	夕立	天文
5720	明治38年	夏の部	雨やどり椎ばかりなる涼しさよ	涼し	時候
5721	明治38年	夏の部	獨居の芭蕉に黙す麦こがし	麦焦し	人事
5722	明治38年	夏の部	雷に賢聖障子震ひけり	雷	天文
5723	明治38年	夏の部	青々と朝露垂るゝ胡瓜哉	瓜	植物
5724	明治38年	夏の部	夏山や敵の輜重のあり所	夏山	地理
5725	明治38年	夏の部	夏山や一あめすぐる宇治の町	夏山	地理
5726	明治38年	夏の部	夕立に芭蕉忽ちほぐれけり	夕立	天文
5727	明治38年	夏の部	温泉の宿がくれし金魚かな	金魚	動物
5728	明治38年	夏の部	三文の茄子五文の瓜も涼し	雑	雑
6045	明治39年	夏の部	その鳴くや佝屈として墓	墓	動物
6046	明治39年	夏の部	千載に一たび舞はむ墓	墓	動物
6047	明治39年	夏の部	藜伐て貧しき中に盟ひけり	藜	植物
6048	明治39年	夏の部	粽結ふ女の心付りけり	粽	人事
6049	明治39年	夏の部	青眼のあるじや梅の実をかぢる	梅の實	植物
6050	明治39年	夏の部	墓を獲て筆を絶ちけり奇人僧	墓	動物
6051	明治39年	夏の部	舊跡や畑とならば紅の花	紅花	植物
6052	明治39年	夏の部	二頃の田青鷺も居て我富めり	青鷺	動物
6053	明治39年	夏の部	百貫の銭を荷へり夏木立	夏木立	植物
6054	明治39年	夏の部	衣更て人を遠きに懐ひけり	更衣	人事
6055	明治39年	夏の部	時鳥啼く頃の花さへ悲し	時鳥	動物
6056	明治39年	夏の部	清新の句を酬ひけり鮓の客	鮓	人事
6057	明治39年	夏の部	鮓なれて故人再び通りけり	鮓	人事
6058	明治39年	夏の部	我を以て貧しとなさず鮓の鮓	鮓	人事
6059	明治39年	夏の部	鮓の鮓少かに足らず朋の來る	鮓	人事
6060	明治39年	夏の部	今來んとばかりになれつ一夜すし	鮓	人事
6061	明治39年	夏の部	野の宮は蟲さへ飛はず青簾	青簾	人事
6062	明治39年	夏の部	青簾偶々過ぐる白頭翁	青簾	人事
6063	明治39年	夏の部	黄昏の月返るや青すたれ	青簾	人事
6064	明治39年	夏の部	青簾夏行の心定まりぬ	青簾	人事
6065	明治39年	夏の部	青簾花を隔てゝ賣花翁	青簾	人事
6066	明治39年	夏の部	子を持たぬ鶉飼か妻の化粧哉	鶉飼	人事
6068	明治39年	夏の部	鶉を縦つ事壮佼を凌ぎけり	鶉	動物
6069	明治39年	夏の部	六國の相印我に鶉繩かな	鶉	動物
6070	明治39年	夏の部	年々の鶉同じからず鶉川哉	鶉	動物
6071	明治39年	夏の部	花むしろ織りちらしたる晝寢哉	晝寢	人事
6072	明治39年	夏の部	うきくさに水まさりけり朝の程	萍	植物
6073	明治39年	夏の部	うき草の花吹く風に吹かれけり	萍	植物
6074	明治39年	夏の部	うき草の花に盛をわびにけり	萍	植物
6075	明治39年	夏の部	うき草の花に負きて小魚見ゆ	萍	植物
6076	明治39年	夏の部	うき草に早しのゝめの花白し	萍	植物
6077	明治39年	夏の部	商人の衣を汚しぬ沖膾	沖膾	人事
6078	明治39年	夏の部	沖膾一ト日脂粉を遠ざくる	沖膾	人事
6079	明治39年	夏の部	丈草は詩を作りけり沖膾	沖膾	人事

夏の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
6080	明治39年	夏の部	酒壺の古きに対す沖膾	沖膾	人事
6081	明治39年	夏の部	逸興や俄かに作る沖膾	沖膾	人事
6082	明治39年	夏の部	鯉幟庭樹の露を拂ひけり	鯉幟	人事
6083	明治39年	夏の部	青梅に興や一家の詩を作る	梅の實	植物
6084	明治39年	夏の部	けし散るを惜む主人やはたゝ神	雷	天文
6085	明治39年	夏の部	矢叫に脅かされし夏野哉	夏野	地理
6086	明治39年	夏の部	蝶一つ遠く吹かれし夏野哉	夏野	地理
6087	明治39年	夏の部	慇懃にすや梅干の壺一つ	梅干す	人事
6088	明治39年	夏の部	衣ぬいで此野を蛇の行方哉	蛇衣を脱ぐ	動物
6089	明治39年	夏の部	口辯のいやしげならず夏羽織	夏羽織	人事
6091	明治39年	夏の部	撫子やこゝに人待つ松林	撫子	植物
6092	明治39年	夏の部	撫子や土手の窪みの草の中	撫子	植物
6093	明治39年	夏の部	撫子に水を求めてありきけり	撫子	植物
6094	明治39年	夏の部	撫子に蕪の茂りや毒うつぎ	撫子	植物
6095	明治39年	夏の部	撫子に砂はねかへす轍かな	撫子	植物
6096	明治39年	夏の部	撫子の淡々しきや宵の星	撫子	植物
6097	明治39年	夏の部	草臥や鼻の先なる野撫子	撫子	植物
6098	明治39年	夏の部	堀切の新道涼し野撫子	撫子	植物
6099	明治39年	夏の部	汐風を遮って松に野撫子	撫子	植物
6100	明治39年	夏の部	水辺の夕撫子や露早し	撫子	植物
6102	明治39年	夏の部	蝉涼し門に車を入れしめず	蝉	動物
6103	明治39年	夏の部	車下りて蝉なく方へ寺涼し	蝉	動物
6104	明治39年	夏の部	案内の坊主に蝉のいばり哉	蝉	動物
6105	明治39年	夏の部	物干して庫裡に人なし蝉時雨	蝉	動物
6106	明治39年	夏の部	梅干はすいぞ / \ と蝉の声	蝉	動物
6107	明治39年	夏の部	蝉木立出あるく僧に拶着す	蝉	動物
6108	明治39年	夏の部	墓守の蹲まる背や蝉涼し	蝉	動物
6109	明治39年	夏の部	傳法の松や飛つく蝉唾なり	蝉	動物
6110	明治39年	夏の部	かしましき蝉ふかれ落つ青田哉	蝉	動物
6111	明治39年	夏の部	象潟は埋れて蝉の声あつし	蝉	動物
6113	明治39年	夏の部	逢戀を柳の妬水馬	水馬	動物
6114	明治39年	夏の部	蛇莓草にかくるゝ朽木かな	蛇莓	植物
6115	明治39年	夏の部	白鹿の其子は人に射られけり	鹿の子	動物
6116	明治39年	夏の部	昼眠る鹿の子に銀杏若葉	鹿の子	動物
6117	明治39年	夏の部	長明が家は若葉にかくれけり	若葉	植物
6118	明治39年	夏の部	草清水薬の紙を飛ばしけり	清水	地理
6119	明治39年	夏の部	人わるく顔を見せじと日傘哉	日傘	人事
6120	明治39年	夏の部	短夜の人に後れし渡シかな	短夜	時候
6121	明治39年	夏の部	牡丹活けて菴の古きに籠りけり	牡丹	植物
6122	明治39年	夏の部	雲の峰旅行く君が笠の上	雲の峰	天文
6123	明治39年	夏の部	渺々の水を吹き来る田植歌	田植	人事
6124	明治39年	夏の部	夏の暁の夕の霞や幟竿	幟	人事
6125	明治39年	夏の部	姉妹の餉を分つ田植哉	田植	人事
6126	明治39年	夏の部	青丹よし奈良を出れば雲の峰	雲の峰	天文
6127	明治39年	夏の部	客一人牡丹をして俗ならしめず	牡丹	植物
6128	明治39年	夏の部	身を修め家を齊へ昼寐哉	晝寝	人事
6129	明治39年	夏の部	山苜蒿の花に出そめし蕪蚊かな	蚊	動物
6130	明治39年	夏の部	橘の香をなつかしみ鳴蚊かな	蚊	動物

夏の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
6131	明治39年	夏の部	昼の蚊の窺ひよるや讀書人	蚊	動物
6132	明治39年	夏の部	一穗の灯ざしや遠く蚊鳴去る	蚊	動物
6133	明治39年	夏の部	夜な / \ の五車の反古に鳴蚊哉	蚊	動物
6134	明治39年	夏の部	鮓の石其頑ナを守りけり	鮓	人事
6135	明治39年	夏の部	柿の花愚かなる子を遊ばしむ	柿の花	植物
6136	明治39年	夏の部	柿の花よべの狸を打ちし跡	柿の花	植物
6137	明治39年	夏の部	柿の花掃きも棄つべき流あり	柿の花	植物
6138	明治39年	夏の部	衣濯ぐ智月が宿や柿の花	柿の花	植物
6139	明治39年	夏の部	蚊帳貰うて去来戻りぬ柿の花	柿の花	植物
6140	明治39年	夏の部	運ぶべき甕に夕日や柿の花	柿の花	植物
6141	明治39年	夏の部	加茂を出て日にあたりたる葵哉	葵	植物
6142	明治39年	夏の部	加茂の子が戯れかざす葵かな	葵	植物
6143	明治39年	夏の部	葵かけて糺の水に鑑みぬ	葵	植物
6144	明治39年	夏の部	枯葵清少納言老いにけり	葵	植物
6145	明治39年	夏の部	葵かざす蒼生や神の國	葵	植物
6146	明治39年	夏の部	氷室守老いて帝の御幸哉	氷室	人事
6147	明治39年	夏の部	氷室見て氷の髓を思ひけり	氷室	人事
6148	明治39年	夏の部	養老の滝の上なる氷室哉	氷室	人事
6149	明治39年	夏の部	氷室開く吉き日の旭上りけり	氷室	人事
6150	明治39年	夏の部	百合の花活々として氷室山	氷室	人事
6151	明治39年	夏の部	水鶏啼くや郷先生の碑のあたり	水鶏	動物
6152	明治39年	夏の部	鶺鴒を縦つ人壯ン也鬢の霜	鶺鴒	動物
6153	明治39年	夏の部	綿打によき娘あり棉の花	棉の花	植物
6154	明治39年	夏の部	白蓮の咲きしが特に骨立ちぬ	蓮	植物
6155	明治39年	夏の部	一村や麻より低き家ばかり	麻	植物
6156	明治39年	夏の部	雲水と挨拶しけり麻頭巾	麻頭巾	人事
6157	明治39年	夏の部	一宿して立去る君や麻頭巾	麻頭巾	人事
6158	明治39年	夏の部	麻頭巾白眼に人通りけり	麻頭巾	人事
6159	明治39年	夏の部	高山の嵐や夏の蝶あがる	夏の蝶	動物
6160	明治39年	夏の部	夕顔に人まだ早し辻説法	夕顔	植物
6161	明治39年	夏の部	合歡咲くや日はあか / \ と西の海	合歡の花	植物
6162	明治39年	夏の部	雨乞の人むら / \ と登山哉	雨乞	人事
6163	明治39年	夏の部	一盆の水くつがへす簞	簞	人事
6164	明治39年	夏の部	寺深く微涼を慕ひ至りけり	涼し	時候
6165	明治39年	夏の部	夏菊にまゆ商人をもてなしぬ	夏菊	植物
6166	明治39年	夏の部	朝露や晒し遺れし晒菅	菅刈	人事
6167	明治39年	夏の部	露おくや踏まれずにある晒菅	菅刈	人事
6168	明治39年	夏の部	葭簀して藍扱く女白かりし	藍扱く	人事
6169	明治39年	夏の部	野の村や麻より低き家ばかり	麻	植物
6171	明治39年	夏の部	昼顔のからまるものも無かりけり	晝顔	植物
6173	明治39年	夏の部	臍の蚊を打つたびに我句は成りぬ	蚊	動物
6174	明治39年	夏の部	南瓜咲いて民の愠りの解けにけり	南瓜の花	植物
6175	明治39年	夏の部	南瓜作る南瓜の花が咲きにけり	南瓜の花	植物
6176	明治39年	夏の部	万卷の書を讀破しぬ心太	心太	人事
6177	明治39年	夏の部	墓鳴くや家に焚餘の書を藏む	墓	動物
6178	明治39年	夏の部	書庫を出る洒掃の子や今年竹	若竹	植物
6179	明治39年	夏の部	葛藁の輩ラ涼し書を讀む	涼し	時候
6180	明治39年	夏の部	白蓮や一日外典に目をさらす	蓮	植物

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
6181	明治39年	夏の部	五車の蠹魚と我老にけり簞	簞	人事
6182	明治39年	夏の部	江山を藏めて涼し書庫の中	涼し	時候
6478	明治40年	夏の部	花に負き句を闘はす牡丹かな	牡丹	植物
6479	明治40年	夏の部	目に残る扇流や河鹿鳴く	河鹿	動物
6480	明治40年	夏の部	夏山に居て材木の荒削り	夏山	地理
6481	明治40年	夏の部	先生の爲に蚊火焚く夜学哉	蚊遣	人事
6482	明治40年	夏の部	蚊やり草薫と薺とを分ちけり	蚊遣	人事
6483	明治40年	夏の部	籠り人少れに来る蚊に起きてあり	蚊	動物
6484	明治40年	夏の部	湯上りや妻が刈来る蚊やり草	蚊遣	人事
6485	明治40年	夏の部	一片の心蚊をやく故人かな	蚊遣	人事
6486	明治40年	夏の部	白頭の今に苦吟や蚊を悪む	蚊	動物
6487	明治40年	夏の部	今朝とりし菊の葉の虫や雹がふる	雹	天文
6488	明治40年	夏の部	百合を折る一時の興や峠越え	百合	植物
6489	明治40年	夏の部	たが家の墓所や大きな百合の花	百合	植物
6490	明治40年	夏の部	百合活けて山野の氣味を覚えけり	百合	植物
6491	明治40年	夏の部	夏の日を恐るゝ人や百合の花	百合	植物
6492	明治40年	夏の部	露の谷行く / \ 百合の山路哉	百合	植物
6493	明治40年	夏の部	風に偃す草と異り百合の花	百合	植物
6494	明治40年	夏の部	野百合咲いて軍兵の目を涼しくす	百合	植物
6495	明治40年	夏の部	山裾の岬の幟吹かれけり	幟	人事
6496	明治40年	夏の部	夏山や騾といふ馬牽来る	夏山	地理
6497	明治40年	夏の部	短夜の事かきそへつ文のはし	短夜	時候
6498	明治40年	夏の部	述懐の洒々落々と明易き	短夜	時候
6499	明治40年	夏の部	地氣動くところ果して清水かな	清水	地理
6500	明治40年	夏の部	劍客と袂を分つ清水かな	清水	地理
6501	明治40年	夏の部	夜出でしけものゝ跡や草しみず	清水	地理
6502	明治40年	夏の部	商人の錢鳴らしけり岩清水	清水	地理
6503	明治40年	夏の部	人絶えて溢るゝばかり清水哉	清水	地理
6504	明治40年	夏の部	滴りの金石にしむ清水かな	清水	地理
6505	明治40年	夏の部	清水湧く一路当帰の茂かな	清水	地理
6506	明治40年	夏の部	日光の草に浴き清水哉	清水	地理
6507	明治40年	夏の部	村の子の草くゞり行く清水哉	清水	地理
6508	明治40年	夏の部	村塾の罰則清水汲ましめぬ	清水	地理
6509	明治40年	夏の部	あけやすく既に幟の二三本	幟	人事
6510	明治40年	夏の部	牡丹さげて競馬の泥を避けにけり	牡丹	植物
6512	明治40年	夏の部	行々子も鳴かず豊葦原の國	行々子	動物
6513	明治40年	夏の部	海濶の二字を題しぬ冲膾	冲膾	人事
6514	明治40年	夏の部	賓客の到りまもなく夕立哉	夕立	天文
6515	明治40年	夏の部	蓬生やかゝる小家に金魚玉	金魚玉	人事
6516	明治40年	夏の部	象潟の鶴は返らぬ青田哉	青田	地理
6517	明治40年	夏の部	松葉ちる一々法の韻きかな	松落葉	植物
6518	明治40年	夏の部	經藏を風に開くや松落葉	松落葉	植物
6519	明治40年	夏の部	萍や木深く見えて城戸の趾	萍	植物
6520	明治40年	夏の部	萍に生れしと見る虫のとぶ	萍	植物
6521	明治40年	夏の部	萍や鐘は水樹に隠見す	萍	植物
6522	明治40年	夏の部	浮草や蟬鳴く森を水の上	萍	植物
6523	明治40年	夏の部	浮草に新たに蓮の巻葉哉	萍	植物
6524	明治40年	夏の部	萍に立よりてやゝ吹かれけり	萍	植物

夏の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
6525	明治40年	夏の部	萍に蚊火の烟の消にけり	萍	植物
6526	明治40年	夏の部	萍も土用の花と咲にけり	萍	植物
6527	明治40年	夏の部	萍のはびこるまゝや水平	萍	植物
6528	明治40年	夏の部	虫干の室に隣りて謡かな	蟲干	人事
6529	明治40年	夏の部	虫干や天地に留む一詩巻	蟲干	人事
6530	明治40年	夏の部	葛藁の何にさゝやく曝書哉	蟲干	人事
6531	明治40年	夏の部	書をさらし終る松風蘿月哉	蟲干	人事
6532	明治40年	夏の部	蝉鳴くと行く道の辺の泉哉	蝉	動物
6533	明治40年	夏の部	蝉すゞし山に不断の法の声	蝉	動物
6534	明治40年	夏の部	清浄の身を蝉のなく下山哉	蝉	動物
6535	明治40年	夏の部	涼しげに蝉聴ゝおはすとも見えず	蝉	動物
6536	明治40年	夏の部	山深きかしこさよ蝉鳴くさへも	蝉	動物
6537	明治40年	夏の部	此山の巨人の跡や雨祈る	雨乞	人事
6538	明治40年	夏の部	雨乞の地をトす崖の青すゝき	雨乞	人事
6539	明治40年	夏の部	雨祈るこの大木を力かな	雨乞	人事
6540	明治40年	夏の部	雨乞の人狼籍す百合の花	雨乞	人事
6541	明治40年	夏の部	人泊めし蚊帳の釣手も名残哉	蚊帳	人事
6542	明治40年	夏の部	白扇に夏菊そへて使かな	夏菊	植物
6543	明治40年	夏の部	夏菊を乞へば主人の吝さかに	夏菊	植物
6544	明治40年	夏の部	夏菊にそゝぐべき水一荷哉	夏菊	植物
6545	明治40年	夏の部	夏菊にまじり剪られつ雑の草	夏菊	植物
6546	明治40年	夏の部	夏菊に人早魃の立咄	夏菊	植物
6547	明治40年	夏の部	うろくつの耳すますらん御祓川	御祓	人事
6548	明治40年	夏の部	七種のみそきの供物星涼し	御祓	人事
6549	明治40年	夏の部	水ナ上の蒼々の樹や御祓川	御祓	人事
6550	明治40年	夏の部	御祓人通ふ草原小石原	御祓	人事
6551	明治40年	夏の部	神の御衣想ふみそぎの水の色	御祓	人事
6552	明治40年	夏の部	御祓川尊きものに瀬を早み	御祓	人事
6553	明治40年	夏の部	御祓川岸辺に長き青すゝき	御祓	人事
6554	明治40年	夏の部	波さわぐ物の恐れや御祓川	御祓	人事
6555	明治40年	夏の部	御祓川雲吹落す嵐山	御祓	人事
6556	明治40年	夏の部	夕祓水ひた / \ と岸辺かな	御祓	人事
6557	明治40年	夏の部	清水近く飯白き宿と記しけり	清水	地理
6558	明治40年	夏の部	猿酒に明易き夜や君が酔	短夜	時候
6559	明治40年	夏の部	朴すゞし君が行李のおきどころ	涼し	時候
6560	明治40年	夏の部	冷酒の酔を忘るな山臈	冷酒	人事
6561	明治40年	夏の部	夏菊の貧を侮りぬ仇し草	夏菊	植物
6562	明治40年	夏の部	百合の香に驚いて相別れけり	百合	植物
6563	明治40年	夏の部	糠漬の浴き別れや瓜茄子	雑	雑
6564	明治40年	夏の部	語合ふ明日の別を灯取虫	灯取蟲	動物
6565	明治40年	夏の部	灯取虫の魂君が草枕	灯取蟲	動物
6566	明治40年	夏の部	夕顔に早く蝸つる病かな	夕顔	植物
6567	明治40年	夏の部	鑛毒に遠く夕顔咲にけり	夕顔	植物
6568	明治40年	夏の部	夕兒やいつこ神鳴る宵の癖	夕顔	植物
6569	明治40年	夏の部	相似たり夕兒棚のありどころ	夕顔	植物
6570	明治40年	夏の部	夕兒を見つ刈にゆく蚊やり草	夕顔	植物
6571	明治40年	夏の部	納涼する塩噌の外の一聞哉	納涼	人事
6573	明治40年	夏の部	夏菊の家一つ舟果にけり	夏菊	植物

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
6574	明治40年	夏の部	今日の瀬の鮎居ずなりし故郷哉	鮎	動物
6575	明治40年	夏の部	吾を知る人や乏しき鮎くれし	鮎	動物
6576	明治40年	夏の部	鮎くるゝ人に鄙吝の心なし	鮎	動物
6577	明治40年	夏の部	見下ろすや鮎つる人に岩高き	鮎	動物
6578	明治40年	夏の部	山に居る官人に鮎乞はれけり	鮎	動物
6579	明治40年	夏の部	鮎を釣る朝のいとまや川近き	鮎	動物
6580	明治40年	夏の部	山門の金剛玉や麦埃り	麦打ち	人事
6840	明治41年	夏の部	編笠に月照るばかり夜道かな	編笠	人事
6841	明治41年	夏の部	花苗のあだに伸びたり田植過	田植	人事
6842	明治41年	夏の部	心太すすって自問自答かな	心太	人事
6843	明治41年	夏の部	わが家の藏書乏しうして涼し	涼し	時候
6844	明治41年	夏の部	喬木の生立ち涼し沢一つ	涼し	時候
6845	明治41年	夏の部	風蓮雨蓮此意を以て詩を品す	蓮	植物
6846	明治41年	夏の部	山郭やこの一筋の御祓川	御祓	人事
6847	明治41年	夏の部	繭屑のえり屑も満つ古麻小笥	繭	人事
6848	明治41年	夏の部	硯賣重荷卸すやまゆむしろ	繭	人事
6849	明治41年	夏の部	詩の意公主に媚ぶや鬪草	鬪草	人事
6850	明治41年	夏の部	雨雲の千里百里や鬪草	鬪草	人事
6851	明治41年	夏の部	齷齪と世に處る人や蚤一つ	蚤	動物
6852	明治41年	夏の部	たちぎわの朝雷や蚤の宿	蚤	動物
6853	明治41年	夏の部	洪水を見に早起や蚤の宿	蚤	動物
6854	明治41年	夏の部	目ふさげばきのふの花やのみの宿	蚤	動物
6855	明治41年	夏の部	佗人の先づ知る蚤や花うつき	蚤	動物
6856	明治41年	夏の部	夏の雨浴びて尚釣るけしきかな	夏の雨	天文
6857	明治41年	夏の部	聞知らぬ農話の興や夏の雨	夏の雨	天文
6858	明治41年	夏の部	一炉けぶる幻住庵や夏の雨	夏の雨	天文
6859	明治41年	夏の部	夏の雨牧畜の構大なり	夏の雨	天文
6860	明治41年	夏の部	けしの如く敦盛死して夏の雨	夏の雨	天文
6861	明治41年	夏の部	野辺送三百人や草茂る	草茂る	植物
6862	明治41年	夏の部	茂りゆく山辺薄命佳人すむ	茂り	植物
6864	明治41年	夏の部	一草の茂れるも一伽藍かな	草茂る	植物
6865	明治41年	夏の部	羅や花活けて妻の主ぶる	羅	人事
6866	明治41年	夏の部	さをとめの早起の戸や水鶏啼く	早乙女	人事
6867	明治41年	夏の部	新妻の顔の黒子や鮎を押す	鮎	人事
6868	明治41年	夏の部	隣人の何に竹割る明易き	短夜	時候
6869	明治41年	夏の部	鮎つるとこそ見ゆれ肩聳かす	鮎	動物
6870	明治41年	夏の部	老鶯や行李が届く假の宿	老鶯	動物
6871	明治41年	夏の部	竹植ゑて小酌常と異ならず	竹植る	人事
6872	明治41年	夏の部	なべて家は桜青葉や竹植うる	竹植る	人事
6873	明治41年	夏の部	桃の実は兒孫の汁や竹植うる	竹植る	人事
6874	明治41年	夏の部	半日小集竹植しつかれあり	竹植る	人事
6875	明治41年	夏の部	来べき人来ずと文あり竹うゝる	竹植る	人事
6876	明治41年	夏の部	大なる泉を控え酒煮哉	煮酒	人事
6877	明治41年	夏の部	露茂る里見に来れば酒煮哉	煮酒	人事
6878	明治41年	夏の部	花にそゝぐ夕や酒煮の家あるじ	煮酒	人事
6879	明治41年	夏の部	椎一木酒煮の僕こぞりけり	煮酒	人事
6880	明治41年	夏の部	酒煮祝ふお僧尊くおはしけり	煮酒	人事
6881	明治41年	夏の部	斯道の絶えずも芭蕉玉をまく	芭蕉玉巻	植物

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
6882	明治41年	夏の部	夏箆や翯々として虫のとぶ	夏籠	人事
6883	明治41年	夏の部	蛾と化して白き翅や虎が雨	蛾	動物
6884	明治41年	夏の部	蚊柱や馬賣惜む頑に	蚊	動物
6885	明治41年	夏の部	閨と云へど女も棲まず柿の花	柿の花	植物
6886	明治41年	夏の部	鍛冶もすむ山手の茂文庫見ゆ	茂り	植物
6887	明治41年	夏の部	三ヶ条書庫の掟や蟬すゞし	蟬	動物
6888	明治41年	夏の部	編みさしの凶書目録や梅黄ばむ	梅の實	植物
6889	明治41年	夏の部	日上るや降らぬにきまる旱雲	旱	天文
6890	明治41年	夏の部	水をせく石動かすや旱村	旱	天文
6891	明治41年	夏の部	神事佛事なき一郷の旱哉	旱	天文
6892	明治41年	夏の部	養魚地に鳥捕る鶉も旱哉	旱	天文
6893	明治41年	夏の部	水源地鬱蒼として早かな	旱	天文
6894	明治41年	夏の部	紙魚出る頃に終りぬ嗟峨日記	紙魚	動物
6895	明治41年	夏の部	打ち / \ し紙魚弔ふや秋隣	紙魚	動物
6896	明治41年	夏の部	愁へては行李のしみをはたきけり	紙魚	動物
6897	明治41年	夏の部	夏箆や肱を曲ぐれば紙魚ひそむ	紙魚	動物
6898	明治41年	夏の部	掃へどもしみ出る事よ諸子百家	紙魚	動物
6899	明治41年	夏の部	はた / \ としみ打つ祖父や晝寐時	紙魚	動物
6900	明治41年	夏の部	硯石の産地の論や百合の花	百合	植物
6901	明治41年	夏の部	打水や虫は書灯の方へ飛ぶ	打水	人事
6902	明治41年	夏の部	打水や怪鳥も来鳴く庭木にて	打水	人事
6903	明治41年	夏の部	小半日習字打水したりけり	打水	人事
6904	明治41年	夏の部	打水の折から一騎通りけり	打水	人事
6905	明治41年	夏の部	打水に猫の子走る庭浅し	打水	人事
6906	明治41年	夏の部	地拓けバ先づ馬鈴薯や夏野原	夏野	地理
6907	明治41年	夏の部	夏野路や沼沿ひとときぞ沼も見えず	夏野	地理
6908	明治41年	夏の部	放牧の馬に濁れり夏野川	夏野	地理
6909	明治41年	夏の部	蹄跡中窪路の夏野哉	夏野	地理
6910	明治41年	夏の部	松ありて祖師に似し憇ふ夏野かな	夏野	地理
6911	明治41年	夏の部	景にふれて帰山の念や舟遊	舟遊	人事
6912	明治41年	夏の部	桑の実や心に会して古詩をよむ	桑の實	植物
6913	明治41年	夏の部	山荒の話はたごに虹近し	虹	天文
6914	明治41年	夏の部	渡守の後ろ曠野や虹の空	虹	天文
6915	明治41年	夏の部	藻がくれに子鴨うきけり虹明り	虹	天文
6916	明治41年	夏の部	虹うつる山裾道の日傘かな	虹	天文
6917	明治41年	夏の部	層々の山迢々の水虹あかり	虹	天文
7108	明治42年	夏の部	筍に花漬の約償ひぬ	筍	植物
7109	明治42年	夏の部	反古清書筍の皮棄にけり	筍	植物
7110	明治42年	夏の部	提婆品筍の皮剥き落す	筍	植物
7111	明治42年	夏の部	木曾路より音信到る袷かな	袷	人事
7112	明治42年	夏の部	大杯をあぐと誇張の幟かな	幟	人事
7113	明治42年	夏の部	木立出れば馬に鞭つ幟かな	幟	人事
7114	明治42年	夏の部	水攻の河も空しき幟かな	幟	人事
7115	明治42年	夏の部	朴の葉に糧裹む慣ひ幟哉	幟	人事
7116	明治42年	夏の部	家の吉事栽うる門木や幟立つ	幟	人事
7118	明治42年	夏の部	一景に一神守護や雲の峰	雲の峰	天文
7120	明治42年	夏の部	游艸にとぶむ歌曲や夏柳	夏柳	植物
7122	明治42年	夏の部	此水も此樹も石も風かほる	薰風	天文

夏の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
7123	明治42年	夏の部	熊笹の刈場を谷のさみだるゝ	五月雨	天文
7124	明治42年	夏の部	五月雨や一物の香炉賣惜む	五月雨	天文
7125	明治42年	夏の部	鷺を射る的なす森や五月雨	五月雨	天文
7126	明治42年	夏の部	女沼男沼通路知らずさみだるゝ	五月雨	天文
7127	明治42年	夏の部	生き死ぬる毛虫羽虫や五月雨	五月雨	天文
7128	明治42年	夏の部	毒草にふれし歎や雨祈る	雨乞	人事
7129	明治42年	夏の部	神業の雨ふれば峯渡る鹿	雨乞	人事
7130	明治42年	夏の部	請雨法夕に開く花の前	雨乞	人事
7131	明治42年	夏の部	遠雷や筆端に墨みちぬれば	雷	天文
7132	明治42年	夏の部	河中の根木を漁人の納涼哉	納涼	人事
7133	明治42年	夏の部	夏の山雷落つるけはひ哉	夏山	地理
7134	明治42年	夏の部	百姓の手負いたはる瓜の畑	瓜	植物
7243	明治43年	夏の部	諸木輪講一石黙す夏行かな	安居	人事
7244	明治43年	夏の部	結夏の偈朝に夕に朱を点ず	安居	人事
7245	明治43年	夏の部	一字酬う到来の筆や安居寺	安居	人事
7246	明治43年	夏の部	角なきが如牙なきが如一夏の字	安居	人事
7247	明治43年	夏の部	妄執の焰夏經の頭上かな	安居	人事
7248	明治43年	夏の部	酒をたつ一夏堅固や雲の峰	安居	人事
7249	明治43年	夏の部	つみすつる夏花汲みすつる泉哉	夏花	人事
7251	明治43年	夏の部	夏木描く傍鬼の話哉	夏	時候
7252	明治43年	夏の部	一宿に足る交や露涼し	夏の露	天文
7253	明治43年	夏の部	草木の名を知る誇り蚊火あるじ	蚊遣	人事
7254	明治43年	夏の部	客頻りに山容を賞す蚊やり時	蚊遣	人事
7255	明治43年	夏の部	里蚊やり頃になれば山おろし吹く	蚊遣	人事
7256	明治43年	夏の部	君にけぶる蚊火よと妻のあふきけり	蚊遣	人事
7257	明治43年	夏の部	蚊火に加ふ金泥の反古二三片	蚊遣	人事
7337	明治44年	夏の部	遠まはりして水細に綿の花	綿の花	植物
7338	明治44年	夏の部	馬好きの暮鷄好きの且綿の花	綿の花	植物
7340	明治44年	夏の部	薫風や露の主人にさそはれて	薫風	天文
7341	明治44年	夏の部	水打て鯉の大きき語りけり	打水	人事
7343	明治44年	夏の部	帰路一字改竄思ふ山清水	清水	地理
7344	明治44年	夏の部	初祖遠忌藪の清水に蹊あり	清水	地理
7345	明治44年	夏の部	柚清水娘の色を白うせり	清水	地理
7346	明治44年	夏の部	響鳴らして人警むる清水哉	清水	地理
7347	明治44年	夏の部	紙魚の如き君と相見る清水哉	清水	地理
7349	明治44年	夏の部	幽明相隔つ話柄や苔清水	清水	地理
7351	明治44年	夏の部	説法ハ瓜の鴉に利くまいぞ	瓜	植物
7430	明治45年	夏の部	此樹あればぞ此里のある夏の月	夏の月	天文
7432	明治45年	夏の部	砧女も其父母もありぬべし	砧	人事
7434	明治45年	夏の部	割前を出さざるまい心太	心太	人事
7436	明治45年	夏の部	水飯をま白しと見る目に涙	水飯	人事
7438	明治45年	夏の部	潭心の寒きより寒し梅の花	梅	植物
7440	明治45年	夏の部	春服やつゝじに匂ふ人の顔	春服	人事
7442	明治45年	夏の部	薬舐る禽にかあらん木下闇	木下闇	植物
7444	明治45年	夏の部	流泉を饒舌と做す簞	簞	人事
7446	明治45年	夏の部	蝉涼し來往に石をふむ流レ	涼し	時候
7448	明治45年	夏の部	遠雷や突兀として起句雄に	雷	天文
7450	明治45年	夏の部	木犀や晨に淡き詩人の灯	木犀	植物

夏の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
7452	明治45年	夏の部	木がくれて童子も立てり夕紅葉	紅葉	植物
7454	明治45年	夏の部	老松の雪振落し / \	雪	天文
7456	明治45年	夏の部	露の珠を吸尽しけむ螢飛ぶ	螢	動物
7458	明治45年	夏の部	双飛鳥一莖葦よだち寂しうす	夜立ち	天文
7459	明治45年	夏の部	峽を下る箭の舟やよだち雲裂けて	夜立ち	天文
7460	明治45年	夏の部	早鬼の角碎けよと夕立かな	夕立	天文
7461	明治45年	夏の部	誰が斧に祟りて深山夕立哉	夕立	天文
7462	明治45年	夏の部	夕立の狼籍たりや里神樂	夕立	天文
7463	明治45年	夏の部	羽うつ鳥の怪異やよだちの水烟	夜立ち	天文
7465	明治45年	夏の部	霹靂として神去りましぬ夏の雲	夏の雲	天文
7467	明治45年	夏の部	早稲の香に天機洩し聞ゆ畏さよ	稲	植物
7469	明治45年	夏の部	九二六五相臨む吉今朝の秋	今朝の秋	時候
7471	明治45年	夏の部	蚊火細う猶寐ねずあり小百姓	蚊遣	人事
7472	明治45年	夏の部	虫掃ふこと丁寧や零墨も	蟲干	人事
7473	明治45年	夏の部	兀ねんと居れば灯取虫一度す	灯取蟲	動物
7474	明治45年	夏の部	時を違へず蝸の啼きいつる	蝸	動物
7475	明治45年	夏の部	秋近き何に指ざす漁者樵者	秋近し	時候
7477	明治45年	夏の部	材木に啼きついて蟬の尚あつし	蟬	動物
7479	明治45年	夏の部	巖踏みし足の埃や鮎の宿	鮎	動物
7595	大正2年	夏の部	梅若葉斯人在焉と又思ふ	若葉	植物
7596	大正2年	夏の部	心相許す新樹の風の前 (全縣青年大会)	新樹	植物
7598	大正2年	夏の部	梅黄ばむも待たざりし才を抱く君	梅の實	植物
7600	大正2年	夏の部	山の雄河の大幟立つところ	幟	人事
7604	大正2年	夏の部	家々祭る天神柿の青きにも	青柿	植物
7606	大正2年	夏の部	庭前を江湖に夏書すゝみけり	夏書	人事
7607	大正2年	夏の部	朴鳴りに清水得つ日を仰ぐ山	清水	地理
7608	大正2年	夏の部	焚火跡を山五月雨の漂はす	五月雨	天文
7609	大正2年	夏の部	館の跡見て藻の花の裏沼へ	藻の花	植物
7610	大正2年	夏の部	館の跡見巡りしつかれ更衣	更衣	人事
7611	大正2年	夏の部	さみだるゝ小家河童の宿にもや	五月雨	天文
7612	大正2年	夏の部	雲低し蓴舟と遠く見てすぎぬ	蓴菜	植物
7613	大正2年	夏の部	川狩の友まつ間登山の詩を作る	川狩	人事
7614	大正2年	夏の部	明日にせまる來遊の事風かほる	薰風	天文
7617	大正2年	夏の部	黄帷子着たり靈異記の一節を眼に	帷子	人事
7621	大正2年	夏の部	轉眼睛即ち萩たり桔梗たり	雑	雑
7623	大正2年	夏の部	水力の事語り尽く蟬の声	蟬	動物
7624	大正2年	夏の部	黙すれば涼し汝と枝蛙	涼し	時候
7625	大正2年	夏の部	瀧をうしろ炭やきと百合に問答す	滝	地理
7627	大正2年	夏の部	山鳥の羽搏を横に百合山路	百合	植物
7628	大正2年	夏の部	奥へ / \ 蹄の跡を百合も見て	百合	植物
7629	大正2年	夏の部	滝の景を大きく説きつ山百合も	百合	植物
7630	大正2年	夏の部	百合の風人まつ心とぞなりぬ	百合	植物
7631	大正2年	夏の部	百合の句案明日又越えん山の事	百合	植物
7731	大正3年	夏の部	螢追へば螢追ふらしき人見えつ	螢	動物
7732	大正3年	夏の部	手親ら蚊やりして仰ぐ門大樹	蚊遣	人事
7733	大正3年	夏の部	彗星出るあたり見て涼しと思ふ	涼し	時候
7734	大正3年	夏の部	打水に花ほのかはゝき星出でむ	打水	人事
7735	大正3年	夏の部	青田ほとり碑の裏の文字名残よむ	青田	地理

夏の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
7737	大正3年	夏の部	松を出て涼し竹に入る尚すゞし	涼し	時候
7738	大正3年	夏の部	虫干の綺羅を目に樹間飛ぶ雀	蟲干	人事
7792	大正4年	夏の部	梅雨雲に翔りて深山鳥の來る	梅雨雲	天文
7795	大正4年	夏の部	夜学用の薪朽ちたり桐の花	桐の花	植物
7796	大正4年	夏の部	百合咲くや水浴ひし馬の蹄鳴り	百合	植物
7944	大正5年	夏の部	餘花一樹山中の地氣もゆる也	餘花	植物
7945	大正5年	夏の部	若葉照りに干割るゝ薪山成せり	若葉	植物
7946	大正5年	夏の部	舟峽を上り螢に泊てにけり	螢	動物
7947	大正5年	夏の部	漁區の禁解けしに客や夏霞	夏霞	天文
7948	大正5年	夏の部	白雲青山幟立つ日かな	幟	人事
7949	大正5年	夏の部	杉深く我足跡に滴りぬ	滴り	地理
7950	大正5年	夏の部	毛虫ハ皆蓐麻に附けと思ふ	毛蟲	動物
7951	大正5年	夏の部	登臨の帽子吹かるゝ若葉哉	若葉	植物
7952	大正5年	夏の部	老鶯や人ハ泉に歩みよる	老鶯	動物
7953	大正5年	夏の部	獨力に岨道成りぬ青芒	青芒	植物
7954	大正5年	夏の部	初蟬や栽ゑし樹またく根づきたり	蟬	動物
7956	大正5年	夏の部	水草の尚生ひまさる五月雲	梅雨雲	天文
7957	大正5年	夏の部	よしのびて鳥來る朝や水の色	葦若葉	植物
7959	大正5年	夏の部	芍薬も見ず鶏のあはただし	芍薬	植物
7960	大正5年	夏の部	短夜の戸に物の苗くれに來る	短夜	時候
7961	大正5年	夏の部	鳴神の夜の間に芭蕉ほぐれたり	雷	天文
7963	大正5年	夏の部	夏の露と答ふるすべも知らざりき	夏の露	天文
7965	大正5年	夏の部	花菖蒲の笑むなべに汝が顔を見る	花菖蒲	植物
7966	大正5年	夏の部	青梅を見るや詩作の思立ち	梅の實	植物
7967	大正5年	夏の部	暑き日のたゞ中を燕閃きぬ	暑さ	時候
7968	大正5年	夏の部	六月の樹々の光に歩むかな	六月	時候
7969	大正5年	夏の部	青嵐の餘氣屢す讀書樓	青嵐	天文
7970	大正5年	夏の部	五月雨に籠り薬を點検す	五月雨	天文
7971	大正5年	夏の部	雲の峰を見る放參の法師原	雲の峰	天文
7972	大正5年	夏の部	眞清水に浸す我魚籃の魚光る	清水	地理
7973	大正5年	夏の部	夕立雲迫るに釣場守るかな	夕立	天文
7974	大正5年	夏の部	火を遁れて潜む毒蛾の明易き	短夜	時候
7975	大正5年	夏の部	早起瓜もぎに行けば瓜の花	瓜の花	植物
7976	大正5年	夏の部	紫陽花に追へども去らぬ睡魔哉	紫陽花	植物
7977	大正5年	夏の部	清水溢れて大川に注ぐ也	清水	地理
7978	大正5年	夏の部	隣家の南瓜蔓垣を越來る	南瓜の花	植物
7979	大正5年	夏の部	蟬高樹吾兒あまりに小さき哉	蟬	動物
7980	大正5年	夏の部	潮引くが如炎天の暮にけり	炎天	天文
7981	大正5年	夏の部	水飯に水の出處の石を想ふ	水飯	人事
7984	大正5年	夏の部	打水に大地息づく木立かな	打水	人事
7985	大正5年	夏の部	柳低く早の土にしだれけり	早	天文
7986	大正5年	夏の部	照り砂に人の汗零つ胡麻の花	胡麻の花	植物
7987	大正5年	夏の部	わが一人行水了へつ秋隣	秋近し	時候
7988	大正5年	夏の部	雨を欲する人群がりぬ暮の星	旱	天文
8105	大正6年	夏の部	喬木の都となりぬ鯉幟	鯉幟	人事
8109	大正6年	夏の部	うの花の寒きが中に獨在らむ	卯の花	植物
8111	大正6年	夏の部	樹ハ喬木となりにけり更衣	更衣	人事
8112	大正6年	夏の部	短夜や靄の中なる川明り	短夜	時候

夏の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
8113	大正6年	夏の部	五月雲過ぐる山又山の勢り	梅雨雲	天文
8114	大正6年	夏の部	新樹風あり書齋整頓す	新樹	植物
8115	大正6年	夏の部	一束の花苗土間の梅雨寒に	梅雨寒	時候
8116	大正6年	夏の部	桑の實や徑曲れば明るき野	桑の實	植物
8118	大正6年	夏の部	遠方の追悼會我に杜宇	時鳥	動物
8120	大正6年	夏の部	如意一揮青梅故の如く也	梅の實	植物
8123	大正6年	夏の部	蝸の中に皆目覚め居り水の音	蚊帳	人事
8124	大正6年	夏の部	蟬の聲水の音人々の耳	蟬	動物
8125	大正6年	夏の部	書中句々皆我を責む雲の峰	雲の峰	天文
8126	大正6年	夏の部	夕蟬に水明り舟岸につく	蟬	動物
8128	大正6年	夏の部	橋渡る人の額や夏の月	夏の月	天文
8130	大正6年	夏の部	鳥人の踵をかへす雲涼し	涼し	時候
8131	大正6年	夏の部	露涼しく今朝又一花開きけり	夏の露	天文
8132	大正6年	夏の部	前栽に灌ぐ水足る涼しさよ	涼し	時候
8133	大正6年	夏の部	石の為めに湛へ流るゝ清水哉	清水	地理
8134	大正6年	夏の部	草刈の日裏に刈るやきり／＼す	草刈	人事
8136	大正6年	夏の部	愛著の焰の外の夏花かな	夏花	人事
10512	大正6年	夏の部	竹揺れて湖も見えけり夕納涼	夕涼	天文
10658	大正6年	夏の部	竹揺れて湖も見えけり夕涼み	夕涼	天文
8274	大正7年	夏の部	脈々の靈氣相知る樹々若葉	若葉	植物
8275	大正7年	夏の部	家々やおのれ引來て菖蒲葺く	菖蒲葺	人事
8276	大正7年	夏の部	葉櫻や逢はまく思ふ人遠き	葉櫻	植物
8277	大正7年	夏の部	大樹なれば鬱々として青嵐	青嵐	天文
8279	大正7年	夏の部	櫻若葉柩に紅き蕊の降る	若葉	植物
8281	大正7年	夏の部	さみだるゝ中やあまりに小さき塚	五月雨	天文
8282	大正7年	夏の部	五月雨の山際あかし夜明かも	五月雨	天文
8283	大正7年	夏の部	五月雨の道の焚火に旅人かな	五月雨	天文
8284	大正7年	夏の部	群木相倚りて五月雨地を流る	五月雨	天文
8285	大正7年	夏の部	さみだれの地に印す馬の蹄かな	五月雨	天文
8286	大正7年	夏の部	山越やさみだるゝ中に餉くふ	五月雨	天文
8287	大正7年	夏の部	牡丹蕊のみこの國のさみたれに	五月雨	天文
8288	大正7年	夏の部	さみだるゝ頃の獸に夜の人	五月雨	天文
8289	大正7年	夏の部	さみだれの髓にやしまむ古芭蕉	五月雨	天文
8290	大正7年	夏の部	五月雨に遠く齎らしぬ花菖蒲	五月雨	天文
8292	大正7年	夏の部	湖の方へ薄暑の車吹かれけり	薄暑	時候
8294	大正7年	夏の部	墓の前に我が立つ葭切も啼かず	行々子	動物
8296	大正7年	夏の部	夏草のかきわくべくもあらぬ哉	夏草	植物
8298	大正7年	夏の部	我が出し山やつゆ雲かゝりゐる	梅雨雲	天文
8299	大正7年	夏の部	深山鳥姿あり／＼とつゆ寒に	梅雨寒	時候
8300	大正7年	夏の部	つゆ雲や波平らかに湖の神	梅雨雲	天文
8301	大正7年	夏の部	つゆ冥し驛樹行人友の如く	梅雨	天文
8302	大正7年	夏の部	梅雨空や矢場の草を等閑に	梅雨空	天文
8304	大正7年	夏の部	朝日子の出づる國也幟竿	幟	人事
8306	大正7年	夏の部	蚤よ蚊よと物思ふ違なかりけり	雑	雑
8308	大正7年	夏の部	頌曰紙魚遊ぶところ亦江山	紙魚	動物
8309	大正7年	夏の部	水饒かに木々吸い剩す涼しさよ	涼し	時候
8310	大正7年	夏の部	葛藟を手繰りをり山人涼し	涼し	時候
8311	大正7年	夏の部	一輪の花日の夕を涼しくす	涼し	時候

夏の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
8312	大正7年	夏の部	山里ハ美婦の行くさへ涼しかり	涼し	時候
8313	大正7年	夏の部	月の出をまつ人々に山涼し	涼し	時候
8314	大正7年	夏の部	山陰の雷鳴簾吹く涼し	涼し	時候
8315	大正7年	夏の部	涼しさに伸びて夜明の瓜の花	涼し	時候
8316	大正7年	夏の部	心涼し南瓜の花の大なるも	涼し	時候
8317	大正7年	夏の部	打水に得堪へで涼し花細か	涼し	時候
8318	大正7年	夏の部	宿の灯の涼し登山のかしま立	涼し	時候
8319	大正7年	夏の部	かゝる難所を剛力と行く涼し	涼し	時候
8320	大正7年	夏の部	剛力は木石の如く涼しけれ	涼し	時候
8321	大正7年	夏の部	難所涼し剛力も巖石の如	涼し	時候
8322	大正7年	夏の部	祠涼しく初茄子献げたる	涼し	時候
8323	大正7年	夏の部	大川の出水定まる夕涼し	涼し	時候
8324	大正7年	夏の部	郡集に足りて濁らず山清水	清水	地理
8325	大正7年	夏の部	壯佼の手々の刃物や山清水	清水	地理
8470	大正8年	夏の部	葩を斂めて牡丹晩に在り	牡丹	植物
8471	大正8年	夏の部	牡丹深沈吾ひとり近寄りぬ	牡丹	植物
8472	大正8年	夏の部	牡丹大方崩れ物の音もなし	牡丹	植物
8473	大正8年	夏の部	庭荒れしがまゝに牡丹ちり尽す	牡丹	植物
8474	大正8年	夏の部	薯山の如し夏野の一家族	夏野	地理
8475	大正8年	夏の部	藪中に奔馬を避くる夏野哉	夏野	地理
8476	大正8年	夏の部	鑛脈のいづち走れる夏野哉	夏野	地理
8477	大正8年	夏の部	水に生きて人現はれし夏野哉	夏野	地理
8478	大正8年	夏の部	只一人雷雨を冒す夏野哉	夏野	地理
8479	大正8年	夏の部	夏野ゆきつくしぬ大河横はり	夏野	地理
8480	大正8年	夏の部	夏野ゆくや注ぎ遍き雨の中	夏野	地理
8481	大正8年	夏の部	夏野年々草に朽ちゆく招魂標	夏野	地理
8482	大正8年	夏の部	火の如く雨蒸れ騰る夏野哉	夏野	地理
8483	大正8年	夏の部	雲冥し夏野に隔つ海の音	夏野	地理
8484	大正8年	夏の部	暮歩々に草の香沈む夏野哉	夏野	地理
8485	大正8年	夏の部	奔馬避けて夏野に立つや風斜	夏野	地理
8487	大正8年	夏の部	蚊遣火の消えしがまゝや佛の灯	蚊遣	人事
8491	大正8年	夏の部	苺摘来て歸省の兄に分ちけり	苺	植物
8493	大正8年	夏の部	苺に汗零つ午や子待つらむ	苺	植物
8494	大正8年	夏の部	苺摘む童と見ゆれ日は斜	苺	植物
8495	大正8年	夏の部	露の葉をこぼれて苺水に在り	苺	植物
8496	大正8年	夏の部	悼亡の句作や苺盛りたるに	苺	植物
8497	大正8年	夏の部	人知らぬ苺に寄りつ閑古鳥	苺	植物
8498	大正8年	夏の部	深山路や苺たわゝに靄上る	苺	植物
8500	大正8年	夏の部	笠打敷けバ泪こぼれぬ苺	苺	植物
8501	大正8年	夏の部	苺嗜む賓人なれや草の宿	苺	植物
8502	大正8年	夏の部	誰をか怨む虫くひ苺弾きつゝ	苺	植物
8504	大正8年	夏の部	函打開くなみゐる人の涼しげに	涼し	時候
8505	大正8年	夏の部	つゆけしやよべの蚊遣のあまり草	蚊遣	人事
8506	大正8年	夏の部	どさと置く蚊遣草夕山おろし	蚊遣	人事
8507	大正8年	夏の部	例年の南瓜棚花盛り也	南瓜の花	植物
8508	大正8年	夏の部	紙魚はたく姿を人に見られけり	紙魚	動物
8510	大正8年	夏の部	物々しく虎杖暑し館ノ下	暑さ	時候
8511	大正8年	夏の部	旱魃の樹々騒がして朝嵐	旱	天文

夏の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
8512	大正8年	夏の部	野人憩へるに青芒すく日哉	青芒	植物
8668	大正9年	夏の部	はつ蟬や雑木もる日の明るさに	蟬	動物
8669	大正9年	夏の部	鶯の老いて谷水湧きやまず	老鶯	動物
8670	大正9年	夏の部	五月雨の麻も蓬も屈む哉	五月雨	天文
8671	大正9年	夏の部	五月雨の漏りふたぐすべも無かりけり	五月雨	天文
8673	大正9年	夏の部	向上の一路を得たり山清水	清水	地理
8674	大正9年	夏の部	きそひ蕃る梢に近し夏の月	夏の月	天文
8675	大正9年	夏の部	寺山の蟬や即ち大般若	蟬	動物
8676	大正9年	夏の部	蟬近し水草しげる水の上	蟬	動物
8677	大正9年	夏の部	書卷山の如蟬鳴く庭淺し	蟬	動物
8678	大正9年	夏の部	蟬鳴くや鬱然として書樓の書	蟬	動物
8680	大正9年	夏の部	蟬涼し共に倚りそふ杉木立	蟬	動物
8681	大正9年	夏の部	蟬涼し一路直ちに山門へ	蟬	動物
8683	大正9年	夏の部	夏草に溢るゝとなし雨そゝぐ	夏草	植物
8684	大正9年	夏の部	晝顔や雨去てたまり水の澄む	晝顔	植物
8685	大正9年	夏の部	夕の花概ね白き夏野哉	夏野	地理
8686	大正9年	夏の部	濱草の名を問ふ旅の愁かな	雑	雑
8687	大正9年	夏の部	松間に崩れて白し土用浪	土用浪	地理
8688	大正9年	夏の部	汐虫も出て遊ぶ湖辺涼しきに	涼し	時候
8689	大正9年	夏の部	夙に起きて花を愛すや青簾	青簾	人事
8690	大正9年	夏の部	談笑朗かに聞ゆ青簾	青簾	人事
8691	大正9年	夏の部	海を見て客と帰りぬ青簾	青簾	人事
8692	大正9年	夏の部	江山の一幅古し青簾	青簾	人事
8693	大正9年	夏の部	汐鳴の幽かになりぬ青簾	青簾	人事
8694	大正9年	夏の部	小酒賣る庭浄めたり百日紅	百日紅	植物
8806	大正10年	夏の部	上人の飛錫杳かや閑古鳥	閑古鳥	動物
8807	大正10年	夏の部	心當てに泉尋ねん閑古鳥	閑古鳥	動物
8808	大正10年	夏の部	閑古鳥あからさまなり軒端山	閑古鳥	動物
8809	大正10年	夏の部	閑古啼くや深山薊の花の色	閑古鳥	動物
8810	大正10年	夏の部	山人の口訥なれや閑古鳥	閑古鳥	動物
8811	大正10年	夏の部	萬木の午睡る也閑古鳥	閑古鳥	動物
8812	大正10年	夏の部	閑古鳥風に吹かれて飛にけり	閑古鳥	動物
8813	大正10年	夏の部	採桑か狂女かあらず閑古鳥	閑古鳥	動物
8814	大正10年	夏の部	雲の冷え艸木に垂れつ閑古鳥	閑古鳥	動物
8815	大正10年	夏の部	山の僧が例の悪詩や閑古鳥	閑古鳥	動物
8817	大正10年	夏の部	稀に見るつゝじ爛れつ酒の酔	躑躅	植物
8818	大正10年	夏の部	咲き残るつゝじを尋ねありきけり	躑躅	植物
8819	大正10年	夏の部	崇山や五月の會の人少な	五月	時候
8820	大正10年	夏の部	鋤鋤禾の處を得たり雑煮くふ	雑煮	人事
8821	大正10年	夏の部	麦秋や枇杷の樹下の讀書人	麦の秋	時候
8822	大正10年	夏の部	麦秋に僧を招じてひそかなる	麦の秋	時候
8823	大正10年	夏の部	麦秋の日黄也大戦の後	麦の秋	時候
8824	大正10年	夏の部	麦秋を出生又も女の子	麦の秋	時候
8825	大正10年	夏の部	一方の雲の爛れや麦の秋	麦の秋	時候
8826	大正10年	夏の部	麦秋の黎明はやも立咄	麦の秋	時候
8827	大正10年	夏の部	麦秋や我等寄進の鐘が鳴る	麦の秋	時候
8828	大正10年	夏の部	細道や関の清水の麦埃	麦の秋	時候
8829	大正10年	夏の部	崇山を望む麦秋の事終へて	麦の秋	時候

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
8830	大正10年	夏の部	眼前に祭迫りぬ麦埃	麦の秋	時候
8831	大正10年	夏の部	晝顔や何に依々たる日今人	日傘	人事
8832	大正10年	夏の部	立寄れば日傘を透す蝉しぐれ	日傘	人事
8833	大正10年	夏の部	日傘置けば毛虫這よる草の上	日傘	人事
8834	大正10年	夏の部	梅黄む家の子供の日傘かな	日傘	人事
8835	大正10年	夏の部	雨上りの日傘眩ゆし蝸牛	日傘	人事
8836	大正10年	夏の部	祇王寺を離るゝ日傘一ツ哉	日傘	人事
8837	大正10年	夏の部	日傘たゝみ水際に顔を並べけり	日傘	人事
8838	大正10年	夏の部	青空のいや遠々し日今人	日傘	人事
8839	大正10年	夏の部	露畠の大露見居り日今人	日傘	人事
8840	大正10年	夏の部	草の丈舊蹟なれば日今人	日傘	人事
8841	大正10年	夏の部	六月の草木照合ふ日今哉	日傘	人事
8842	大正10年	夏の部	少女ぶり日傘の色の濃かに	日傘	人事
8843	大正10年	夏の部	象潟の森の松かげ日傘見ゆ	日傘	人事
8844	大正10年	夏の部	紺碧の湖に泛べる日傘哉	日傘	人事
8846	大正10年	夏の部	人の子や薫れと祈る蚊遣草	蚊遣	人事
8847	大正10年	夏の部	名所の鹿の子近寄る日傘哉	日傘	人事
8987	大正11年	夏の部	初幟己れ生れて重右エ門	幟	人事
8989	大正11年	夏の部	青梅の枝さし伸べし書齋哉	梅の實	植物
8990	大正11年	夏の部	松落葉つもりて久し松の色	松落葉	植物
8992	大正11年	夏の部	湖濶けたり一むら葦の若葉より	葦若葉	植物
8993	大正11年	夏の部	文晁居の主人と知りて行々子	行々子	動物
8995	大正11年	夏の部	牡丹見て一詩を成さず酒の梅	牡丹	植物
8997	大正11年	夏の部	繩墨の痕鮮かに風薫る	薫風	天文
8998	大正11年	夏の部	青梅や眞晝啼去る杜宇	梅の實	植物
8999	大正11年	夏の部	青梅の枝葉もる日や美少年	梅の實	植物
9000	大正11年	夏の部	青梅や霽るゝ慣ひの雲の峰	梅の實	植物
9001	大正11年	夏の部	青梅や日に / \ 雲の峰づくり	梅の實	植物
9002	大正11年	夏の部	青梅や客の驚く流れ水	梅の實	植物
9003	大正11年	夏の部	人の子ハ着飾り來梅黄む頃	梅の實	植物
9004	大正11年	夏の部	青梅に着飾りありく人の子よ	梅の實	植物
9005	大正11年	夏の部	青梅の林に入りぬ輕き汗	梅の實	植物
9006	大正11年	夏の部	青梅や長男臥病家に在り	梅の實	植物
9007	大正11年	夏の部	青梅の古幹かくす草の丈	梅の實	植物
9008	大正11年	夏の部	青梅をゆさぶり去りぬ朝嵐	梅の實	植物
9012	大正11年	夏の部	二十年家郷を出でず花茨	茨の花	植物
9013	大正11年	夏の部	思寝の蜩に目覚めて夢暗し	蚊帳	人事
9014	大正11年	夏の部	桑の実に稚き頃の面ざしも	桑の實	植物
9016	大正11年	夏の部	遠く之を望む一木の茂り哉	茂り	植物
9020	大正11年	夏の部	うろくづと生れ変らば涼しかる	涼し	時候
9021	大正11年	夏の部	雨乞の験もなしに明易き	短夜	時候
9022	大正11年	夏の部	明易き樹や海鳥の假宿り	短夜	時候
9023	大正11年	夏の部	短夜や既に根つきし物の苗	短夜	時候
9024	大正11年	夏の部	短夜をなど燕雀のかしましき	短夜	時候
9025	大正11年	夏の部	短夜や磯の祭の朝篝	短夜	時候
9026	大正11年	夏の部	明易き耳を貫く矢聲哉	短夜	時候
9027	大正11年	夏の部	妻が炊ぐ一日の糧や明易き	短夜	時候
9028	大正11年	夏の部	問答は了る青山明易き	短夜	時候

夏の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
9029	大正11年	夏の部	短夜や虫の骸のさながらに	短夜	時候
9031	大正11年	夏の部	灯籠を見るものにせん浅き庭	燈籠	人事
9032	大正11年	夏の部	唐黍の間ひに低し雲の峰	雲の峰	天文
9033	大正11年	夏の部	赤鬼のよち登る見ゆ雲の峰	雲の峰	天文
9034	大正11年	夏の部	雲の峰暮れて稲妻起りけり	雲の峰	天文
9035	大正11年	夏の部	雲の峰顔れかゝりし伏家哉	雲の峰	天文
9036	大正11年	夏の部	雲の峰をよそに麻引き進むかな	雲の峰	天文
9037	大正11年	夏の部	諸子百家文庫の窓の雲の峰	雲の峰	天文
9038	大正11年	夏の部	登山衆の後ろに聳ゆ雲の峰	雲の峰	天文
9039	大正11年	夏の部	草臥れて行手に遠し雲の峰	雲の峰	天文
9040	大正11年	夏の部	東京の方に当りて雲の峰	雲の峰	天文
9041	大正11年	夏の部	雲の峰崩れて消えて星一ツ	雲の峰	天文
9228	大正12年	夏の部	父も母も牡丹散りしを知らざりき	牡丹	植物
9229	大正12年	夏の部	喪に居りて庭樹のしげり怖ろしき	茂り	植物
9230	大正12年	夏の部	このいちごの香よ色よ徒に腐りゆく	苺	植物
9231	大正12年	夏の部	汝に告ぐ豌豆の花白かりし	豌豆の花	植物
9234	大正12年	夏の部	煩惱の手に掃ひけり夏のつゆ	夏の露	天文
9373	大正13年	夏の部	朝戸開く童女に牡丹ゆらぎけり	牡丹	植物
9374	大正13年	夏の部	菖蒲蓬軒に炊烟颯りけり	菖蒲	植物
9375	大正13年	夏の部	弟兄のきそひ引来る菖蒲かな	菖蒲	植物
9376	大正13年	夏の部	桐の花水に流るゝ嵐かな	桐の花	植物
9377	大正13年	夏の部	豁ラなる空に吹入る青嵐	青嵐	天文
9378	大正13年	夏の部	青梅や毛虫及ばぬ斜一枝	梅の實	植物
9379	大正13年	夏の部	雨冷えや若葉にこもる禽の声	若葉	植物
9380	大正13年	夏の部	山鳩の二ツ飛び立つ若葉哉	若葉	植物
9381	大正13年	夏の部	谷川の橋危きに若葉哉	若葉	植物
9382	大正13年	夏の部	曼多羅に若葉耀く日尊き	若葉	植物
9383	大正13年	夏の部	網打てバ底くゞる魚や淵若葉	若葉	植物
9384	大正13年	夏の部	澗水の底明りする若葉哉	若葉	植物
9385	大正13年	夏の部	若葉山人住みて麦黄む也	若葉	植物
9386	大正13年	夏の部	神宮の木々の若葉やまのあたり	若葉	植物
9387	大正13年	夏の部	日に雨に若葉悲しく潔し	若葉	植物
9388	大正13年	夏の部	若葉風馬に飲ふ両三騎	若葉	植物
9389	大正13年	夏の部	青梅に訪来る人の帽古き	梅の實	植物
9390	大正13年	夏の部	青梅や賓客と踏む庭の苔	梅の實	植物
9391	大正13年	夏の部	青梅や俄に曇る麓村	梅の實	植物
9392	大正13年	夏の部	青梅や机に通ふ朝嵐	梅の實	植物
9393	大正13年	夏の部	青梅や錢弄ぶ童達	梅の實	植物
9394	大正13年	夏の部	青梅や遺稿を寫し了る頃	梅の實	植物
9395	大正13年	夏の部	青梅を後ろに窯の火を見居り	梅の實	植物
9396	大正13年	夏の部	青梅に陶やく窯の焰かな	梅の實	植物
9397	大正13年	夏の部	夏草にひた押寄する出水哉	夏草	植物
9398	大正13年	夏の部	夏草に蹄ぬれ来る子馬かな	夏草	植物
9399	大正13年	夏の部	夏草に支ふものなき奔馬哉	夏草	植物
9400	大正13年	夏の部	喜雨亭の跡夏草の葉廣草	夏草	植物
9401	大正13年	夏の部	蛇のゐる夏草薙ぎて進みけり	夏草	植物
9402	大正13年	夏の部	桑の実に薄暑の人の憩ひけり	薄暑	時候
9403	大正13年	夏の部	よき水の想出にみつ薄暑人	薄暑	時候

夏の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
9404	大正13年	夏の部	著飾りて薄暑行く也緑の野	薄暑	時候
9405	大正13年	夏の部	薄暑來て山人と會ふ湖の人	薄暑	時候
9406	大正13年	夏の部	一路平安薄暑の草に笠を置く	薄暑	時候
9407	大正13年	夏の部	蛸つりて二三子去りぬ芭蕉庵	蚊帳	人事
9408	大正13年	夏の部	語りつきてかたふく月に蛸つりぬ	蚊帳	人事
9409	大正13年	夏の部	蛸つりて座る所も無かりけり	蚊帳	人事
9411	大正13年	夏の部	熱くなき涼しくもなき國とかや	涼し	時候
9560	大正14年	夏の部	石に彫りし我が句の魂か閑古鳥	閑古鳥	動物
9561	大正14年	夏の部	野路ゆけバ雲むれ去るや茨の花	茨の花	植物
9562	大正14年	夏の部	館址の茂りを醜し大河あり	茂り	植物
9563	大正14年	夏の部	明易き大河の橋を渡り去る	短夜	時候
9564	大正14年	夏の部	つゆ雲に濕ふや我が旅衣	梅雨雲	天文
9565	大正14年	夏の部	螢一つ句碑のあたりを飛去らず	螢	動物
9566	大正14年	夏の部	神木を放れて螢一ツ哉	螢	動物
9567	大正14年	夏の部	老憂しや曉方の螢見て	螢	動物
9568	大正14年	夏の部	羽搏ちくる火蛾や木鳴らす夜嵐に	蛾	動物
9569	大正14年	夏の部	執著や二ツ相搏つ灯取虫	灯取蟲	動物
9570	大正14年	夏の部	灯の虫のむくろを棄てつ露涼し	夏の露	天文
9571	大正14年	夏の部	火蛾悲し尸を曬す古經卷	蛾	動物
9572	大正14年	夏の部	水盤を海と浮びつ灯取虫	灯取蟲	動物
9573	大正14年	夏の部	男沼女沼水草の花黄に白に	水草の花	植物
9574	大正14年	夏の部	萍の花撲つ雨を喜びぬ	萍	植物
9575	大正14年	夏の部	眞菰すく / \ 萍の花平ら也	萍	植物
9576	大正14年	夏の部	水草の花咲いて水の魔を封ず	水草の花	植物
9577	大正14年	夏の部	水草の花の盛りを禊かな	水草の花	植物
9579	大正14年	夏の部	禮佛や堂を下れば瓜の花	瓜の花	植物
9580	大正14年	夏の部	雨急也茂の中の朴廣葉	茂り	植物
9581	大正14年	夏の部	山寺の石を潤ほしよだち過ぐ	夜立ち	天文
9582	大正14年	夏の部	帽軽き帰省の子らよ瓜の花	瓜の花	植物
9583	大正14年	夏の部	繭干して小家山雨に襲はるゝ	繭	人事
9584	大正14年	夏の部	一木の白花こぼるゝ茂かな	茂り	植物
9585	大正14年	夏の部	河鹿棲む水を湛へて茂哉	茂り	植物
9586	大正14年	夏の部	繭賣りて淋しき灯かゝげけり	繭	人事
9587	大正14年	夏の部	貧しさはよき繭盛りぬ古筐	繭	人事
9589	大正14年	夏の部	朗らかに晴開けバ夏樹哉	新樹	植物
9741	大正15年	夏の部	うつ木咲く鄙に讀むべき歌書もなし	卯の花	植物
9742	大正15年	夏の部	うの花の垣並めて祭休み哉	卯の花	植物
9743	大正15年	夏の部	水鳴るは闇の垣根やうつ木咲く	卯の花	植物
9744	大正15年	夏の部	したゝかな露の一朝うつ木咲く	卯の花	植物
9746	大正15年	夏の部	吾棲みて舊りぬる軒や菖蒲葺く	菖蒲葺	人事
9748	大正15年	夏の部	來し方や道一筋の花卯木	卯の花	植物
9749	大正15年	夏の部	推敲の觀瀾記事や心太	心太	人事
9750	大正15年	夏の部	百里來て交を結ぶ心太	心太	人事
9751	大正15年	夏の部	貧しかれど娘ハ賣らじ心太	心太	人事
9752	大正15年	夏の部	月山の雪汁すゝれ心太	心太	人事
9754	大正15年	夏の部	心太さそくのあるじまうけ哉	心太	人事
9756	大正15年	夏の部	新樹道をてらして泉近づけり	新樹	植物
9757	大正15年	夏の部	硯石風に潤ふ新樹かな	新樹	植物

夏の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
9758	大正15年	夏の部	賀の筵新樹に扇ひらめかす	新樹	植物
9759	大正15年	夏の部	酒微醺に入り新樹光あり	新樹	植物
9761	大正15年	夏の部	鮎もくれて儕故し百合花	百合	植物
9762	大正15年	夏の部	座右の物茶經三卷籠枕	籠枕	人事
9763	大正15年	夏の部	莊周が夢の行方や籠枕	籠枕	人事
9764	大正15年	夏の部	竹夫人廬山の雨を含みけり	竹夫人	人事
9765	大正15年	夏の部	抱箆の夢や青海原の上	竹夫人	人事
9766	大正15年	夏の部	抱箆や碧紗を隔つ夜の空	竹夫人	人事
9768	大正15年	夏の部	鳶も魚も處に在りてつゆ曇	梅雨雲	天文
9770	大正15年	夏の部	夏山に虎溪と名づけ廬せり	夏山	地理
9771	大正15年	夏の部	夏山の何れにか在る氷室守	夏山	地理
9772	大正15年	夏の部	夏山や山守もなき流レ水	夏山	地理
9773	大正15年	夏の部	夏山に人を導く日午也	夏山	地理
9774	大正15年	夏の部	夏山に誰ぞ廬して衣干す	夏山	地理
9775	大正15年	夏の部	夏山の霞を吸ひて嘶ふ馬	夏山	地理
9776	大正15年	夏の部	蚊火焚くと主人出て行く宵闇よ	蚊遣	人事
9777	大正15年	夏の部	賓人と大に笑ふ蚊やり哉	蚊遣	人事
9778	大正15年	夏の部	蚊火すてゝ主人嘯き去にけり	蚊遣	人事
9779	大正15年	夏の部	蚊火けふるあたりに吾を待つらんぞ	蚊遣	人事
9780	大正15年	夏の部	古軒に釣竿かゝる蚊遣哉	蚊遣	人事
9781	大正15年	夏の部	魚籃あけて少き魚や蚊やり草	蚊遣	人事
9783	大正15年	夏の部	撫子や濃かれと灌ぐ花の色	撫子	植物
9784	大正15年	夏の部	蚊火けふり主人が姿かくれけり	蚊遣	人事
9786	大正15年	夏の部	瓜茄子の徳を修めんとぞ思ふ	雑	雑
9788	大正15年	夏の部	三尺の庭に王たり墓	墓	動物
9789	大正15年	夏の部	南天の花踏んで墓出にけり	墓	動物
9790	大正15年	夏の部	墓出てゝ主人やうやく酔來る	墓	動物
9791	大正15年	夏の部	茗荷林を浪々の身や墓	墓	動物
9792	大正15年	夏の部	萩早く苔みて墓の名残哉	墓	動物
9793	大正15年	夏の部	杯を啣みて墓と相見たる	墓	動物
9794	大正15年	夏の部	百合の丈の高くもあるか墓	墓	動物
9795	大正15年	夏の部	麟を獲て絶ちし筆はや墓	墓	動物
9796	大正15年	夏の部	闇の中に残りぬ墓と庭石と	墓	動物
10046	昭和2年	夏の部	高木渡る風や幟の吹流し	鯉幟	人事
10047	昭和2年	夏の部	幟白し眞田が跡の一郭	幟	人事
10048	昭和2年	夏の部	蕃山の葉山の中の幟哉	幟	人事
10049	昭和2年	夏の部	幟吹くや水の流の朝嵐	幟	人事
10050	昭和2年	夏の部	幟立つや五日の空の深みどり	幟	人事
10052	昭和2年	夏の部	卯の花を詠じて迎へ給ふらむ	卯の花	植物
10055	昭和2年	夏の部	琵琶罷んで皆春惜む人ばかり	春惜む	時候
10057	昭和2年	夏の部	深山鳥羽耀かす五月晴	五月晴	天文
10058	昭和2年	夏の部	裏山や五月晴して朴高木	五月晴	天文
10059	昭和2年	夏の部	五月晴水を隔つる翠微哉	五月晴	天文
10060	昭和2年	夏の部	五月晴翠微に颯る烟哉	五月晴	天文
10061	昭和2年	夏の部	海の如く野ハ緑なり五月晴	五月晴	天文
10062	昭和2年	夏の部	鳥めかす枝の雀や五月晴	五月晴	天文
10063	昭和2年	夏の部	故郷は花なき草の茂哉	草茂る	植物
10064	昭和2年	夏の部	草茂る中の筧や山の水	草茂る	植物

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
10065	昭和2年	夏の部	山水の流れて白し五月晴	五月晴	天文
10066	昭和2年	夏の部	古道を行けば家なし草茂る	草茂る	植物
10068	昭和2年	夏の部	藤の花虚空高きに揺ぐ哉	藤の花	植物
10070	昭和2年	夏の部	青嵐嵯峨の話のつきなくに	青嵐	天文
10071	昭和2年	夏の部	與に見る保津川石や子規	時鳥	動物
10073	昭和2年	夏の部	六月の鶯を道の枝折哉	六月	時候
10074	昭和2年	夏の部	山に上る僧俗二人夏の露	夏の露	天文
10075	昭和2年	夏の部	木いちごに靄の痕見つ閑話頭	木苺	植物
10077	昭和2年	夏の部	繭かきの一人に蝶や近く来る	繭	人事
10078	昭和2年	夏の部	繭かきの額の汗や唐葵	繭	人事
10080	昭和2年	夏の部	諸悪莫作鼻高ながら蟻	蟻	動物
10082	昭和2年	夏の部	はしきやし雀子は巢に籠りゐる	雀の子	動物
10084	昭和2年	夏の部	易へずあらむ宵々蚊火の置所	蚊遣	人事
10086	昭和2年	夏の部	八重垣に濃緑菖蒲匂ひけむ	菖蒲	植物
10087	昭和2年	夏の部	三笑の聲聴知らむ蝸牛	蝸牛	動物
10088	昭和2年	夏の部	金泥の文字見ぬ久し蝸牛	蝸牛	動物
10089	昭和2年	夏の部	でゝむしや角の上なる寂しをり	蝸牛	動物
10090	昭和2年	夏の部	紫陽花の露を喰ひぬ蝸牛	蝸牛	動物
10091	昭和2年	夏の部	金泥の書に近づかずかたつぶり	蝸牛	動物
10092	昭和2年	夏の部	蝸牛兵火を遁れこゝに在り	蝸牛	動物
10093	昭和2年	夏の部	病葉や梢に見たる梅小粒	病葉	植物
10094	昭和2年	夏の部	病葉のちり / \ 早つづくらし	病葉	植物
10095	昭和2年	夏の部	病葉に何喧すし群雀	病葉	植物
10096	昭和2年	夏の部	病葉のちりからびたり苔の上	病葉	植物
10097	昭和2年	夏の部	病葉や人を夢みる紅閨裡	病葉	植物
10098	昭和2年	夏の部	かまびすく病葉落す群雀	病葉	植物
10100	昭和2年	夏の部	蓬萊の香ぐの果も簞	簞	人事
10102	昭和2年	夏の部	あらがねの土を離れて瓜の花	瓜の花	植物
10103	昭和2年	夏の部	瀧水に葛の葉ぬれて眞夏なる	滝	地理
10104	昭和2年	夏の部	淙々と瀧壺浅し蟬の聲	滝	地理
10105	昭和2年	夏の部	瀧を觀る良久し手に夏蕨	滝	地理
10106	昭和2年	夏の部	蕃山に道失へり瀧の音	滝	地理
10107	昭和2年	夏の部	滝の末かちわたりせむ葛の花	滝	地理
10409	昭和3年	夏の部	薰風や貢の禽の餌につく	薰風	天文
10410	昭和3年	夏の部	白鷗ハ籠に返らず風かほる	薰風	天文
10411	昭和3年	夏の部	薰風や雫は潜む苔の中	薰風	天文
10412	昭和3年	夏の部	薰風に長途の笠や羽黒山	薰風	天文
10413	昭和3年	夏の部	薰風や驛路すぐる鈴の聲	薰風	天文
10415	昭和3年	夏の部	短夜の心あまりて鳴く蛙	短夜	時候
10416	昭和3年	夏の部	魚棲まぬ水の深さよ青嵐	青嵐	天文
10417	昭和3年	夏の部	閑古鳥幾たび影を醜しけむ	閑古鳥	動物
10418	昭和3年	夏の部	岩に巢ふ小禽何々苔の花	苔の花	植物
10419	昭和3年	夏の部	六月や岩に花咲く晝の露	六月	時候
10420	昭和3年	夏の部	流るゝは鳥の古巢か青嵐	青嵐	天文
10421	昭和3年	夏の部	夕立雲裂けて碎けて岩孤ツ	夕立	天文
10422	昭和3年	夏の部	夏雲と孰れ傾く岩穂かな	夏の雲	天文
10423	昭和3年	夏の部	常盤木の落葉もたぎち流れけり	常盤木落葉	植物
10425	昭和3年	夏の部	城址の近きに家す青すたれ	青簾	人事

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
10426	昭和3年	夏の部	よき水に立寄る人や青簾	青簾	人事
10427	昭和3年	夏の部	岩せまる谿に家しつ青簾	青簾	人事
10429	昭和3年	夏の部	庭を見て未だ帰らず青簾	青簾	人事
10430	昭和3年	夏の部	薰風や兜を祀る杉の中	薰風	天文
10431	昭和3年	夏の部	指し示す杉のあはひや古清水	清水	地理
10432	昭和3年	夏の部	利き鈍き鍬埋れて草清水	清水	地理
10433	昭和3年	夏の部	水を戀ひて啼くらむ鳥ぞ早苗取	早苗取	人事
10434	昭和3年	夏の部	睡蓮や逕は曲る豎穴へ	睡蓮	植物
10436	昭和3年	夏の部	蚊帳の夢きのふの山の翠かな	蚊帳	人事
10437	昭和3年	夏の部	山水を脱却したり明易き	短夜	時候
10438	昭和3年	夏の部	物賣ハ鮎にかあらむ釣忍	釣忍	人事
10439	昭和3年	夏の部	戸をさゝで獨となりぬ釣忍	釣忍	人事
10440	昭和3年	夏の部	逢はぬ戀にすりけむ昔忍草	忍草	植物
10441	昭和3年	夏の部	たぎつ瀬に垂れつ乱れつ忍草	忍草	植物
10442	昭和3年	夏の部	石女やつりて久しき忍草	釣忍	人事
10444	昭和3年	夏の部	畚の土胡瓜の花に振りこぼす	瓜の花	植物
10446	昭和3年	夏の部	露涼し夜と別るゝ花の様	夏の露	天文
10448	昭和3年	夏の部	水近き潤ひ芭蕉巻葉哉	芭蕉玉巻	植物
10449	昭和3年	夏の部	日中や地に梅干の壺一ツ	梅干す	人事
10450	昭和3年	夏の部	枝に在りしきのふの梅を漬にけり	梅干す	人事
10452	昭和3年	夏の部	吾が思ふ方へ靡けり女郎花	女郎花	植物
10453	昭和3年	夏の部	蓮の實の飛ぶと知りたる賢さよ	蓮實飛ぶ	植物
10454	昭和3年	夏の部	海に入って鯉に近づく雀かな	雀蛤となる	動物
10456	昭和3年	夏の部	句は知らず古人幾夜の火取蟲	灯取蟲	動物
10460	昭和3年	夏の部	夏草を踏みしだき來て獨なる	夏草	植物
10461	昭和3年	夏の部	百合挿して手桶重げに運び出づ	百合	植物
10462	昭和3年	夏の部	古妻の手桶重げに百合の花	百合	植物
10464	昭和3年	夏の部	葉よれ草祈雨の修法の水はじく	雨乞	人事
10465	昭和3年	夏の部	雨乞や涙をつづるのりごと	雨乞	人事
10466	昭和3年	夏の部	雨乞に草木鳴を鎮めたり	雨乞	人事
10467	昭和3年	夏の部	雨乞に上る裾野の小家より	雨乞	人事
10468	昭和3年	夏の部	雨乞に行くや埴生の小屋を出て	雨乞	人事
10469	昭和3年	夏の部	雨乞に根々の神の名呼び申す	雨乞	人事
10471	昭和3年	夏の部	羅や王母が袖にかくすもの	羅	人事
10597	不詳	夏の部	松のこと雲のこと其の時鳥	時鳥	動物
10608	不詳	夏の部	斯の道の未枯瓜に水灌げ	未枯瓜	植物